

令和4年度
普及活動計画

留萌農業をイノベーション 共に創ろう未来の農業



令和4年4月
留萌振興局
留萌農業改良普及センター

目 次

	頁
I 地域の概要	1
II 留萌農業改良普及センターの普及活動方針	5
III 課題別普及活動計画	
1 地域課題一覧	7
2 広域推進事項一覧	10
IV 地域の現状と改善方向及び普及活動の地域課題	11
1 本所地域係の区域	11
(1) 地域の現状と改善方向	
(2) 普及活動の地域課題	
ア 地域係の担当活動区域（苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町）	
(ア) 現状と改善方向	
a 苫前町	13
(a) 農業・農村の現状	
(b) 改善方向	
(c) 具体的な改善対策	
(d) 振興構想図	
b 羽幌町	17
(a) 農業・農村の現状	
(b) 改善方向	
(c) 具体的な改善対策	
(d) 振興構想図	
c 初山別村	21
(a) 農業・農村の現状	
(b) 改善方向	
(c) 具体的な改善対策	
(d) 振興構想図	
d 遠別町	25
(a) 農業・農村の現状	
(b) 改善方向	
(c) 具体的な改善対策	
(d) 振興構想図	
e 天塩町	29
(a) 農業・農村の現状	
(b) 改善方向	
(c) 具体的な改善対策	
(d) 振興構想図	
(イ) 普及活動の地域課題	
a 地域課題一覧	33
b 重点的に取り組む地域課題	36
(a) 推進計画	
(b) 実践計画	
2 南留萌支所の区域	39
(1) 地域の現状と改善方向	
(2) 普及活動の地域課題	
ア 地域係の担当活動区域（留萌市、増毛町、小平町）	
(ア) 現状と改善方向	
a 留萌市	41

(a) 農業・農村の現状	
(b) 改善方向	
(c) 具体的な改善対策	
(d) 振興構想図	
b 増毛町	45
(a) 農業・農村の現状	
(b) 改善方向	
(c) 具体的な改善対策	
(d) 振興構想図	
c 小平町	49
(a) 農業・農村の現状	
(b) 改善方向	
(c) 具体的な改善対策	
(d) 振興構想図	
(イ) 普及活動の地域課題	
a 地域課題一覧	53
b 重点的に取り組む地域課題	54
(a) 推進計画	
(b) 実践計画	
V 広域推進事項等	
1 担い手	57
(1) 対象地域の現状	
(2) 改善方向と対策	
(3) 推進事項	
(4) 具体的推進計画	
2 情報・クリーン・有機	61
(1) 対象地域の現状	
(2) 改善方向と対策	
(3) 推進事項	
(4) 具体的推進計画	
3 高付加価値化	65
(1) 対象地域の現状	
(2) 改善方向と対策	
(3) 推進事項	
(4) 具体的推進計画	
VI 普及業務計画	69
1 農作物生育状況調査	
2 病虫害発生予察	
3 試験展示ほ・実証ほ	
4 その他（土壌診断等）	
（参考）地域農業技術支援会議活動	
VII 業務分担	73
1 活動体制	
2 担当項目	
(1) 作目項目	
(2) 横断項目	

I 地域の概要

1 地理条件

留萌管内は北海道の北西部に位置し西は日本海、北はサロベツ原野、南は暑寒別岳を中心とした増毛山地、東は天塩山地に接した東西67km、南北155kmにわたる南北に長い地域である。西側は海岸近くまで丘陵が迫る海岸段丘が随所に見られ、東側の大部分は山岳丘陵地帯が分布している。北部は天塩川下流域、サロベツ原野などの沖積平野で、中・南部は羽幌川、小平薬川などの日本海に注ぐ中小の河川に沿って平坦地が分布する、「櫛の歯」状の地形が特徴であり、1市6町1村で構成されている。

交通は、国道231号(札幌～留萌)、232号(留萌～天塩)及び主要道道稚内天塩線が沿岸に沿って走り、広域観光ルート「日本海オロロンライン」を形成している。

また、深川と留萌を結ぶ高規格幹線道路「深川・留萌自動車道」が令和2年に完成し、内陸の上川、空知圏との一層の物流拡大、生活・文化・産業経済の交流圏域の拡大が進んでいる。

鉄道は、JR留萌本線(深川～増毛)の一区間(留萌～増毛)が12月5日廃止となり、バス及び乗り合いタクシー等が地域住民の交通手段として、重要になっている。航路は、羽幌港から焼尻島・天売島へのフェリーが運行され離島住民の重要な交通手段となっている。

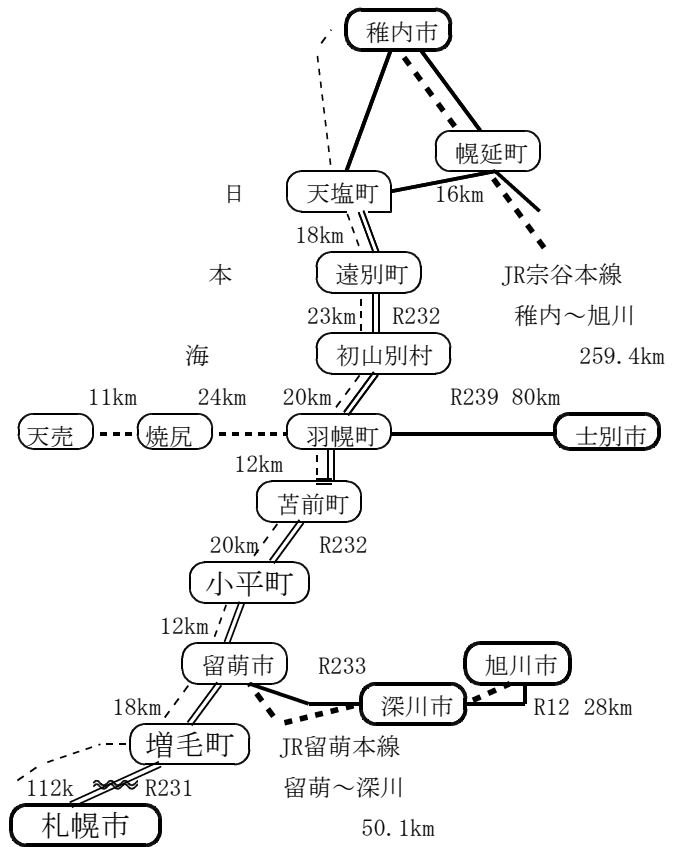


図1 管内市町村間の距離

2 産業構造

管内の人口は昭和30年代前半の約14万人をピークに減少が続いており、住民基本台帳人口では令和3年1月1日現在で43,657人となっている。人口減少の要因は、基幹産業である農林水産業や鉱業の廃止によるもので、過疎化と高齢化の進行が著しく、平成12年度には管内8市町村全てが過疎地域の指定を受けている。また、65歳以上の高齢者人口の割合は39.7%で、全道平均の31.9%に比べてもかなり高くなっている(令和3年国勢調査データ引用)。

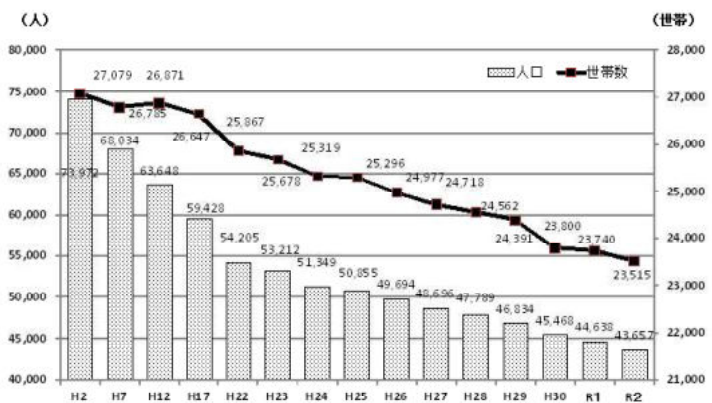


図2 留萌管内の人口と世帯数の推移

3 気象条件

日本海を北上する対馬海流の影響により、同緯度の他の地域に比べ温暖だが、南北に細長い地域のため南部と北部では気温はかなり異なる。

年平均気温をみると、北部は6～7℃、中部は7～8℃、南部は8～9℃となっており、このことが稲作、果樹、野菜から酪農に至る様々な農業形態を生む要因となっている。

また、対馬海流の北上する日本海に面し、後背部が山岳地帯となっていることから、前線や台風などの影響を受けて、秋から冬にかけては降水量が多くなるという特徴が見られる。冬期間の積雪は平均1m前後だが、内陸部では2m前後にも達する地域もあり、11月下旬から4月中旬から下旬まで根雪の期間が続く。

また留萌管内は強風地帯として有名で、特に冬期間に北西の季節風が強く、留萌市の平均風速は5m/s、瞬間最大風速は30m/sに達することがある。

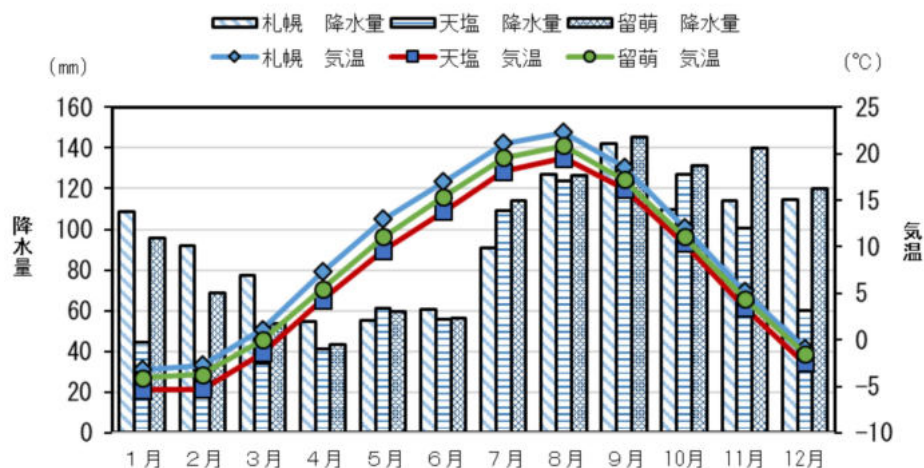


図3 気温と降水量の推移（気象庁：平年値）

4 農業構造

(1) 土壌条件

土壌分布は南北で異なり北部の天塩町の耕地土壌は、天塩川流域や宗谷管内に続く広大なサロベツ原野に分布する泥炭土で大部分が占められている。これに対して、遠別町以南は中小の河川沿いに平坦地が形成されており、主に細粒質褐色低地土・灰色低地土が分布している。

(2) 経営体数と就業構造

令和2年（農業センサス）は744戸と1,000戸を割り込み、年々減少傾向にある。その反面、経営面積が増加する傾向にあり、経営規模の拡大が見られる。新規就農者は平成16年度をピークに減少し、ここ数年8名前後で推移している。平成26年度はUターン就農が13名と多くなっており年次の変動が大きい(図5)。

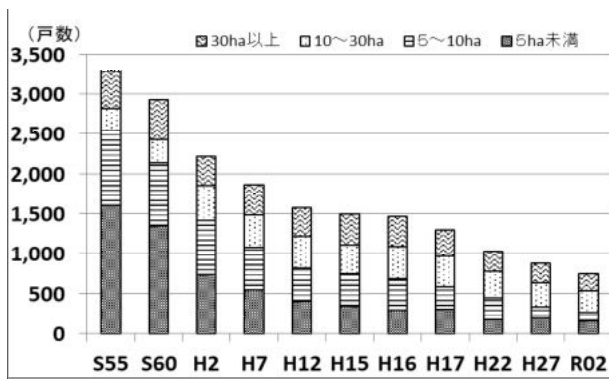


図4 規模別経営体割合の推移（H22より幌延町除く）

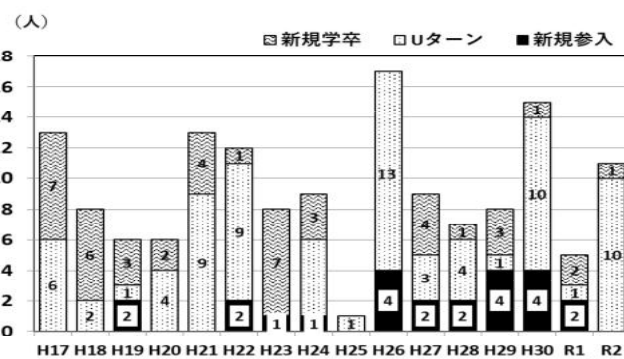


図5 新規就農者の推移（新規就農者実態調査より引用）

(3) 耕地面積の推移

農家戸数の減少に伴い農地の借入による経営面積拡大が進んでいたが、平成27年は貸付面積が増加に転じ、借入耕地面積が平成22年時の前回調査を下回った。規模拡大傾向がやや鈍化している（図6）。

総農家戸数は市町村で差はあるが、100戸前後で推移している。1戸当たりの耕作面積は、遠別町、天塩町で20haを超えるが、留萌市、増毛町など耕種主体の地域は10ha以下の経営規模が多くあり、農地の集積はあまり進んでいない（図7）。

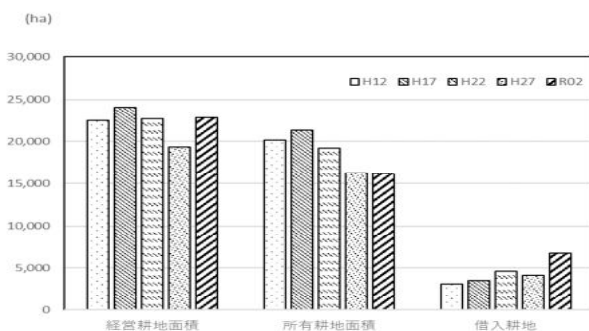


図6 耕地面積の推移（農業センサス）

(4) 年齢構成

農家戸数の減少も歯止めがかからない状況であり、平成16年には1,500戸を割り込み、平成2年の農家戸数から半減した状態に至っている。特に、近年は兼業農家の離農が、農家戸数の減少へと直結している。今後も高齢化の進展などに伴い、減少傾向は継続されることが予想され、地域集落の存亡や地域経済に及ぼす影響が懸念される。

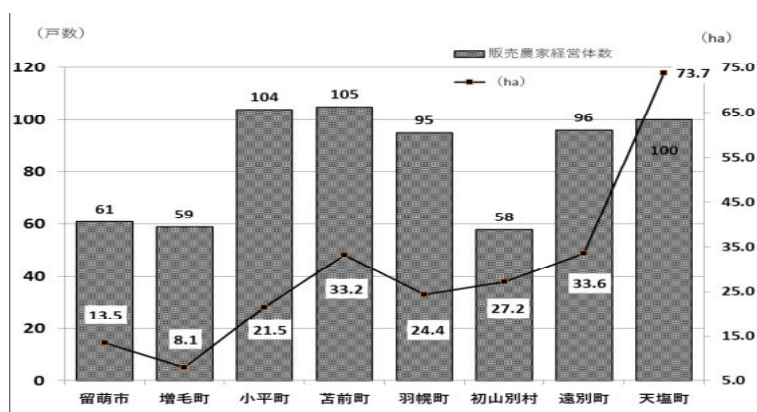


図7 市町村別総農家戸数と1戸あたり耕作面積（農業センサス2020）

近年、農家戸数の減少は鈍化傾向にあるが、進行する高齢化に伴い就業人口は年々減少し、令和2年の販売農家における就業人口は、1,368人となっている。農業就業者の内60歳以上は、50%以上になっている。また、65歳以上の占める割合が約44%（全道40%）と増加傾向にあり、農業経営者の高齢化が進んでいる（図8）。

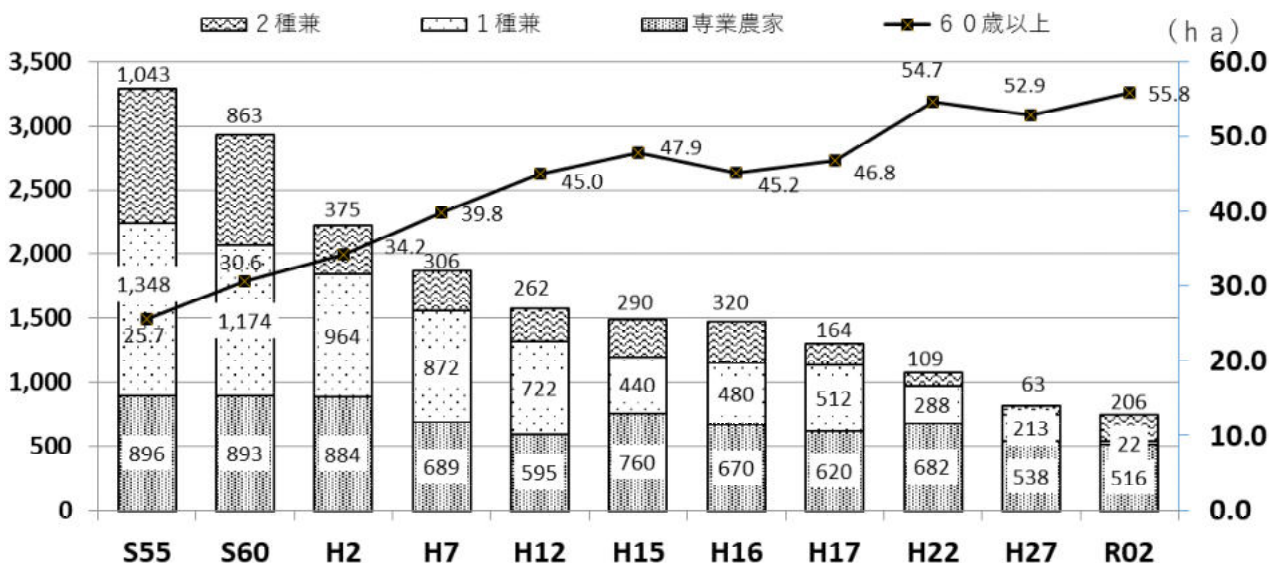


図8 農家戸数の推移と60歳以上就農比率（農林水産統計）

(5) 農業生産

管内農業産出額は令和元年度は178億円となり、畜産部門が約6割、耕種部門約4割の構成比となっている。

北部地域を中心とした酪農は、経営規模の拡大が進み、道内有数の酪農郷を形成している。

中南部の稲作は我が国の水稲生産の北限であるが、道内有数の良質米産地として高い評価を得ている。また、野菜生産でも北限の地域であり、その気候風土を活かし、クリーンな野菜を生産し出荷している。

留萌南部の増毛町では、おうとう、りんご、なし、ぶどう等が生産され、道内有数の果樹産地で北限に位置し、観光果樹園、直売等が盛んである。

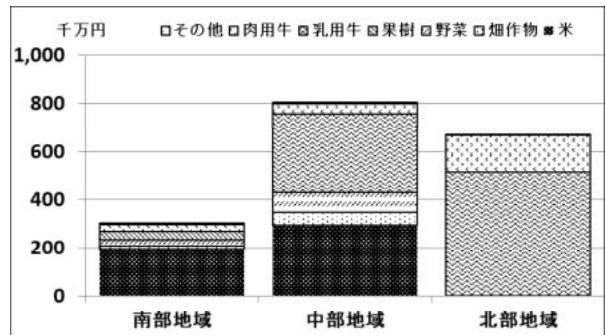


図9 管内の地域別農業算出額 (R1)

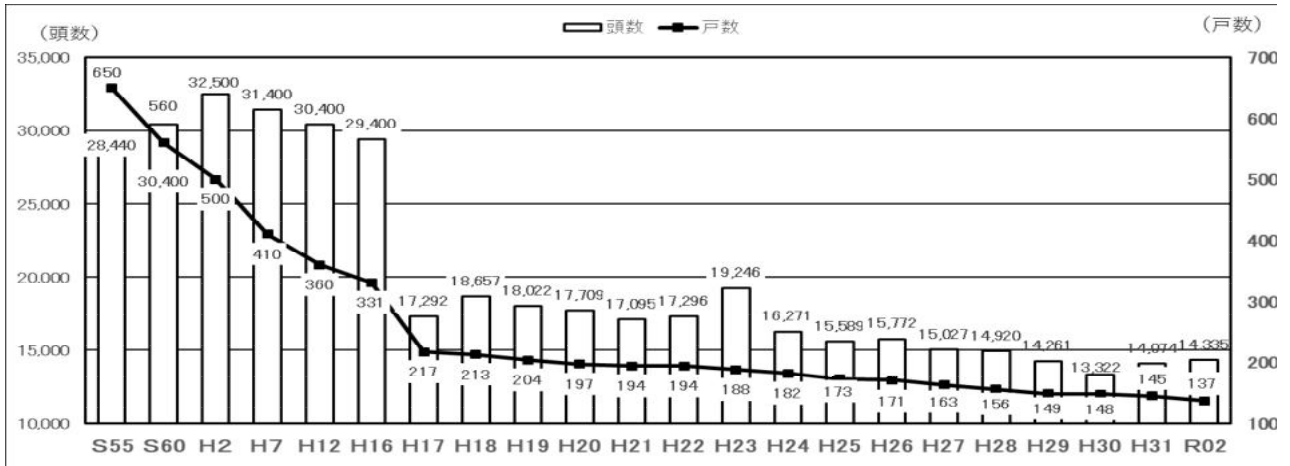


図10 乳用牛の飼養頭数及び戸数の推移

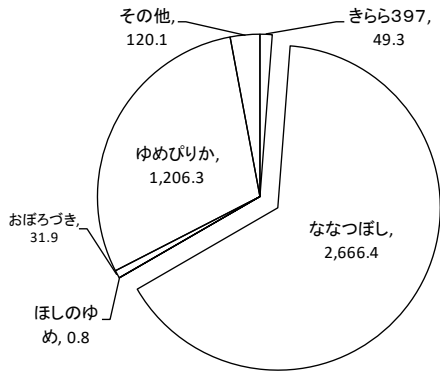


図11 水稲 (うるち米) 品種別栽培面積 (単位: ha・H30)

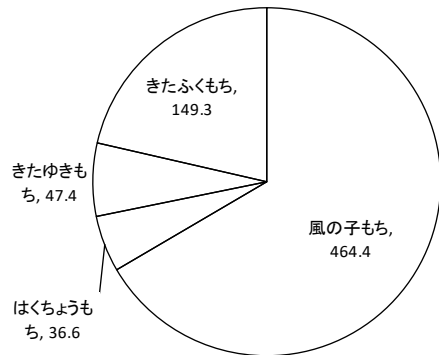


図12 水稲 (もち米) 品種別栽培面積 (単位: ha・H30)

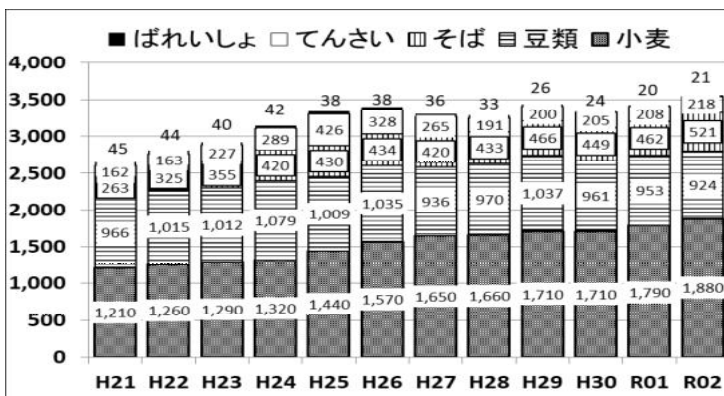


図13 主要畑作物の作付面積推移 (北海道農林水産統計年報)

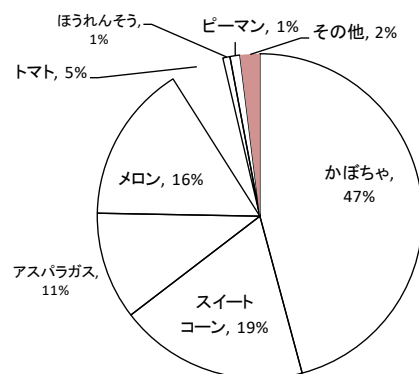


図14 主要野菜の作付面積割合 (単位: %・H30)

II 留萌農業改良普及センターの普及活動方針

留萌地域は日本海に沿って南北に細長く、気候が北と南で異なることから、北部には酪農・肉牛、中部に稲作・畑作・野菜、南部に稲作・果樹等を主体に多様な農業が営まれている。近年は農業経営が厳しさを増す環境下で、農業後継者の減少、さらには農業者の高齢化と離農が進行し、労働力不足が地域の大きな課題となっている。

北海道では「第6期北海道農業・農村振興推進計画」により農業農村振興施策をまとめた。さらに、環境と経済、社会が調和しながら成長を続ける「ゼロカーボン北海道」の実現に向けて、地域に根ざした取り組みを推進していくことになっている。一方、留萌管内4農協が令和3年2月に合併し留萌管内1農協となった。留萌農業改良普及センターはこれらを踏まえ、地域の特性に応じた取り組みを支援し、地域農業が持続的に発展するよう関係機関・団体と連携して普及活動を展開する。

1 普及活動の基本的な取組

- (1) 持続可能で生産性の高い農業・農村の確立
- (2) 国内外の需要を取り込む農業・農村の確立
- (3) 多様な人材が活躍する農業・農村の確立
- (4) 道民の深い理解で支え合う農業・農村の確立

2 普及活動の重点化と提案型の普及活動

(1) 地域ニーズに対応した課題の絞り込み

地域農業者から求められる様々な営農相談や市町村、農協等地域の関係機関からの協力依頼など地域農業振興の課題等について、重要度や緊急度、課題間の相互関連の把握に努め、課題の絞り込みを図る。

(2) 課題の重点化と提案型の普及活動

地域農業者や関係機関との合意形成と役割分担を踏まえ、地域への波及効果を考慮しつつ、優先度の高い課題について重点的な取り組みを推進するとともに、提案型の普及活動を展開する。

(3) 重点普及課題の解決と地域への波及

重点普及課題の設定と具体的な推進事項による課題解決を重点対象地区を拠点として推進するとともに、関係機関や団体と連携して地域への波及に努める。

(4) 農業革新支援専門員の普及活動

協同農業普及事業実施に関する方針並びに協同農業普及事業実施要領に基づき、農業改良普及センターに配置する農業革新支援専門員は、主任普及指導員が担うものとし、その業務に当たっては、各農畜試技術普及室、本庁技術普及課等と連携しながら対応する。

(5) 地域農業技術支援会議、技術体系化チームと連携

地域農業技術支援会議、技術体系化チームと連携し、地域の緊急かつ重点的課題を解決する。

3 具体的な活動内容

(1) 持続可能で生産性の高い農業・農村の確立

ア 近年の温暖化で集中豪雨など頻発する気象災害の被害軽減に向けた技術の検討と、生産基盤の整備を進めるため、試験研究機関や農地整備事業部局との連携を一層強化する。
イ 基幹作物である水稻の収量・品質を向上させるため、育苗から収穫までの適切な肥培管理など基本技術の実施とともに、労働力不足に対応した疎植栽培・直播栽培など地域での省力技術の確立と取組拡大を推進する。

ウ 畑作物の生産安定に向けて、透排水性の改善や、地域に適応した輪作、緑肥などを導入した土づくりを推進する。また、栽培技術の向上を図るため、各作物・品種に応じた適正な肥培管理や病害虫防除のタイムリーな技術情報の提供に努める。

エ 園芸作物では、労働力が大きく減少する中で、省力技術の導入又は地域での開発を支援し、消費者が求める安全・安心で高品質な生産物の供給を生産組織活動を通して推進

する。

オ 酪農・肉牛経営では、多様な酪農経営スタイルでの安定経営を目指し、コントラクター、TMRセンター等、支援システムの効果的な活用による生産性の向上と生乳生産コスト・労働の低減を図り農業所得の確保とゆとりの創出を目指す。

カ 農業生産段階におけるGAPや畜産農場における農場HACCPの導入に対する支援を行う。

キ 消費者の信頼に応える安全な食料生産に向け、農薬の適正使用は元より、農薬や硝酸態窒素など環境負荷物質の可能な限り少ない使用を推進し、引き続きYES!cleanや特別栽培農産物・有機農産物生産、エコファーマーの取り組みを支援する。

ク 家畜排せつ物の適正管理と酪農・耕種経営を連携した有機質循環システムづくりを推進する。

(2) 国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

ア 果樹や園芸作物などの農業者自らが行う農畜産物の加工・販売活動や、農業者と地元企業・農業高校や大学と連携した地域特産品開発など、6次産業化の取り組みを引き続き支援する。

イ 色素取りさつまいもとさつまいも加工品の消費拡大に向けた取り組み支援を継続する。また、地域特産品を継承するための機会を作り、技術の継承を推進する。

(3) 多様な人材が活躍する農業・農村の確立

ア 新規就農者の確保と育成のため、就農希望者の受入制度及び研修制度の整備と運営についてJAや市町村等、指導農業士・農業士会、農業法人等と連携して取り組む。また、若手農業者の学ぶ場として農業基礎ゼミナールを開催し、青年農業者や女性農業者の学習活動を支援し、経営参画を推進する。

イ 各地域の4Hクラブなどの青年農業者や女性農業者グループの活動の充実を図り、広域的なネットワーク組織の活性化を図る。

ウ 農地の受け皿と新規参入者の受け入れや育成等、地域農業の維持に対する役割が期待される農業法人の安定経営に向けて支援する。

エ 地域農業を支える農作業受託組織の運営支援と効率的な作業を進めるため、農地の集積・集約化やGNSS利用、ICTなど新技術の導入を支援する。

オ 地元農業高校と連携し、管内への就農促進に向けた取り組みを進める。

(4) 道民の深い理解で支え合う農業・農村の確立

ア 農業への理解を深めるため農業体験受け入れを進め、消費者交流やグリーンツーリズム等へ向けた農村環境づくりに努める。

イ 地元農業、農村や正しい食生活の理解を深めるため、小学生等の食育を支援する。

ウ 女性農業者グループの活動を支援し、農村食文化等の保存や伝承と新たな食文化づくりに努める。

エ 広い空間を利用した農村景観の形成など心豊かに暮らせる場づくりを支援する。

Ⅲ 課題別普及活動計画

1 地域課題一覧

課題番号	課題名 (関連事業)	具体的 推進事項	主たる 対象市町村	普及対象	担当者	活動期間	頁
1	スマート農業技術の導入による生産の効率化（利用農家の支援）	・ドローンによる防除作業の効率化 支援農家（0戸→5戸）	初山別村	春風農場（5戸）	高橋主査 及川専主 水沼普指 田中普指	R3～R5	33
2	新規就農者の能力向上支援	・ゼミナール開催による農業技術習得・知識力向上 研修会に対する理解度（0%→100%）	苫前町 羽幌町 初山別村 遠別町 天塩町	ゼミナール受講生（のべ8名）	川口係長 及川専主 杉村専普 水沼普指 田中普指	R3～R4	33
3	青年農業者の育成	・積極的な活動の推進 （共同プロジェクト 1→1）	遠別町	遠別町4Hクラブ（10名）	水沼普指 杉村専普	R3～R5	33
		・自主的な活動の定着 （学習意欲の向上 40%→70%）	羽幌町 初山別村	羽幌町・初山別村 ピンクファイブ（6名）	田中普指 及川専主	R3～R5	33
4	水稻省力化栽培技術（密苗栽培）向上支援	・栽培技術の定着・安定生産適切な栽培管理の実施（75%→100%）	羽幌町	みなくるファーム（1法人）	田中普指 高橋主査 及川専主 水沼普指	R3～R4	33

課題番号	課題名 (関連事業)	具体的 推進事項	主たる 対象市町村	普及対象	担当者	活動期間	頁
5	○ゆとりある豊かな地域農業の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水稻省力栽培技術の向上 (水稻湛水直播技術実践80%以上戸数 0戸→0戸→4戸) ・ 畑作物の安定生産による収益性向上 (地力対策実施のべ面積 14.6ha→26.8ha→30ha) ・ 機械のコスト低減と生産性向上 (機械利用組合利用料金設定件数 1→3→5) 	羽幌町	羽幌町築別2地域 (7戸)	川口係長 高橋主査 工藤主査 及川専主 杉村専普 大久保専普 斉藤専普 水沼普指 田中普指 武田次長	R3～R7	36
6	TMRセンター利用農家の生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 粗飼料基盤の強化(コーンサイレージの安定確保 5.6t→6t) ・ 飼養管理の改善(暑熱対策による乳量維持農家1戸→2戸) 	天塩町	合同会社 更岸フィードセンター (5戸)	工藤主査 杉村専普 大久保専普	R3～R4	34

課題番号	課題名 (関連事業)	具体的 推進事項	主たる 対象市町村	普及対象	担当者	活動期間	頁
7	水稲特別栽培米安定生産支援	効率的な防除体系の確立 目標：農薬検討会の回数 (0回→1回)	小平町	小平町特別栽培米研究会(3戸)	山黒普指 荒木普指 新井係長	R4～R5	53
8	○次代を担う水稲を基幹とした地域農業の確立	水稲安定生産技術の確立 ・土壌診断結果に基づいた施肥管理の実施 (実践戸数4戸→4戸→6戸) ・病害虫発生予察情報に基づく防除の実施 (実践戸数0戸→0戸→4戸) 地域農業を考える会(別荘クラブ)の活動支援 ・労働環境の改善 (改善数0個→0個→1個)) ・課題解決の実践 (取り組み数0個→0個→1個)	増毛町	増毛町別荘(10戸)	新井係長 藤塚専普 山黒普指 荒木普指 秋松主査 伊東支所長	R3～R7	54

2 広域推進事項一覧

業務区分	推進事項名 (関連事業)	主たる 対象市町村	普及対象	担当者	頁
担い手	地域農業・農村を支える多様な担い手の育成	管内全市町村	留萌振興局管内市町村担い手育成担当者	田中主査 釣谷主任 川口係長 高橋主査 工藤主査 及川専主 杉村専普 水沼普指 田中普指 新井係長 秋松主査 山黒普指 荒木普指	57
		管内全市町村	新規就農者		
		管内全市町村	農業法人		
情報・ クリーン ・有機	情報の共有化と蓄積情報の有効活用及び情報発信	管内全市町村	留萌振興局管内	内田主査 福屋主任 及川専主 杉村専普 水沼普指 秋松主査 荒木普指	61
	安全・安心なクリーン農産物生産及び持続可能な農業の推進	管内全市町村	留萌振興局管内	内田主査 福屋主任 及川専主 水沼普指 秋松主査 山黒普指	61
高付加価値化	農商工連携による農畜産物の生産販売の振興	管内全市町村	留萌振興局管内	安田主査 福屋主任 杉村専普 斉藤専普 藤塚専普 山黒普指	65
		管内全市町村	高付加価値化グループ 高付加価値化志向者		

IV 地域の現状と改善方向及び普及活動の地域課題

1 本所地域系の区域

本所は、留萌管内中央部の苫前町・羽幌町・初山別村・遠別町及び北部の天塩町を活動エリアとして。中央部は、対馬海流の影響で農耕期間は比較的温暖である。農業地帯は中小河川沿いを中心に水田が、高台に畑地が広がっている。主な作目は水稻（羽幌町・苫前町はうるち米、初山別村・遠別町はもち米）を基幹に畑作物や園芸作物を組み合わせた複合経営が主体である。北部は天塩川左岸流域に広々とした原野があり、夏も冷涼な気候のため草地を主体とした酪農地帯となっている。

(1) 地域の現状と改善方向

ア 持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- (ア) 生産力を最大限に引き出す基盤整備やスマート農業等新技術を導入した農地の集積、集約化をはじめとした効率的な農業経営に取り組むことが求められる。特に農業法人経営や規模拡大における個別経営では、労働力不足や生産技術の平準化により、地域農業の継続に向けて生産コスト低減と省力化、効率化に取り組む必要がある。
- (イ) 地域支援システムとして地域に防除組合、作業受託組織さらには酪農生産ではTMRセンター等があるが労働力の効率利用や安定生産に向けて関係機関と連携して支援する。
- (ウ) 安全・安心な食料の安定生産確保においては、苫前町を中心にYES！clean農業の展開がある。このため、環境保全型農業直接支払制度を活用した緑肥作物の栽培や良質堆肥の施用等を推進し、今後も農産物の安全性を目的としたGAPの取得に向け消費者の食に対する「安全・安心」に応えた生産を推進する。
- (エ) 水稻では低タンパク米の出荷率向上を目指し取り組んでいるが近年では、気象の影響も有り年次変動が顕著になっている。このため、土壌診断に基づいた施肥や省力、安定生産技術の徹底が産地評価を高めるためにも重要である。
- (オ) 畑作は、転作地における排水不良や小麦、大豆の栽培に偏るところがあり、地域の状況に合わせた排水改善や土壌改良、輪作体系によって良品質、安定生産が望まれる。さらに、生産技術の向上による生産量の確保と収穫体制の整備が必要とされる。
- (カ) 園芸は、高収益作物として位置づけられ安定した品質や出荷が求められる。このため、生産の効率化と有利販売に向けた広域出荷体制の産地力の支援が重要である。
- (キ) 酪農生産では、個体乳量は全道レベルに比べ低く、飼養管理等のカウコンフォートが劣っているため乳質が低迷している。このため、施設の改善によるカウコンフォートの適正化、良質飼料の確保による個体乳量の増加と乳質の改善により所得の確保が望まれる。
- (ク) 良質飼料の確保に向けて、鳥獣被害は年々増加しており、特に収穫前の飼料用とうもろこし等の被害は大きく生産量に影響している。このため、関係機関と農業者とし協力して継続的な対策が必要である。

イ 国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- (ア) 地場農産物を活用した加工等の6次化を目指し、生産者、加工業者と連携して付加価値を高める取り組みが行われており、こうした取り組みを行う農業者と栽培技術の支援や関係機関、加工業者等との連携を支援する。
- (イ) 消費者ニーズは多様化しているものの地域の特色を活かした農畜産物が望まれている。地域における野菜生産では、地域の特色を活かした栽培と販売も取り組まれているため、生産と販売に向け栽培技術の支援をはじめとし需要に応じた販売の取り組みを支援する。
- (ウ) 地域では、冬場の農業所得確保に向けて「冬野菜」の生産も取り組まれているが、生産量、品質においては他産地に比べ劣る。このため、地域の特色を活かした生産技術の習得と産地消費をはじめとして商工や消費者のニーズを取り組み、所得確保に向けた安定生産に努めていく。

- (エ) 地場産品として求められている製品について企業と連携し技術支援を行い、栽培技術や加工適性等についても農業者や地域の農業高校との連携で地場産品の加工適性についても検討していく。

ウ 多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- (ア) 農家戸数の減少や労働力不足から新規就農者の確保・育成が喫緊の課題であり重要な取り組みとなっている。オロロン地区(旧JAオロロン、遠別町、初山別村、羽幌町)では、平成30年から「オロロン地区農業担い手確保対策協議会」が設立され地域に定着した新規就農者に対してJAと各町村が連携して支援を行っている。これらの取り組みを充実させるとともに天塩町苫前町を含めた地域全体に波及することを目指す。
- (イ) 管内の新規就農者数の状況は、平成30年は10人以上であったものの概ね5～6名となっている。このため、就農補充率(就農者数/戸数)は、39.1%(R1)と低い。
- (ウ) 新規就農者の支援として「るもい農業基礎ゼミナール」を開講し、農業に関する知識向上と仲間づくりをR1年度より進めている。この取り組みをJAや町村の一層の協力を進め新規就農者の「基本技術の習得」、「仲間づくり」の場として位置づける。また、青年組織や4Hクラブへの参加を進め地域の青年との交流を図っていく。
- (エ) 女性農業者は、管内女性ネットワークを中心に活動が展開しているがグループの経過年数により高齢化が進んでいる。そのため、ネットワークの活性化を図り、次世代を担う女性農業者の育成が求められる。また、若手女性農業者の役割は地域の活性化と農業経営に大きな役割を担っている。このため、女性農業者が活動しやすい環境の整備と家族経営協定や女性農業者の農業経営の位置づけを明確にしていくことが必要である。
- (オ) 地域の指導農業士、農業士は町村別に組織され活動をしている。指導農業士は、地域の振興と担い手育成にその役割を担っている。今後も活動に向けた理解と積極的な農業研修や体験受入等の協力体制を強め役割を明確に進めていく。また、農業士については、4Hクラブや青年組織等の理解者として役割を担い次代のリーダーとして期待する。
- (カ) 地域における農業生産法人は、離農跡地の受け皿や農作業の受託等地域農業を担う重要な存在となっている。このため、農業法人の安定経営は地域農業の活性化に不可欠であり、課題解決に向けた取り組みや農業に興味を持った他産業からの新規参入を目指す者の研修の場や雇用就農の場として重要である。

エ 道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- (ア) 地域には広大な農地と自然豊かな山海が広がっており、地域の豊かな農村生活や農業の魅力の発信が可能である。
- (イ) 地域の教育機関や社会教育と連携して学童の体験学習や農業に興味を持つ道内の大学生等の体験や調査研究の場として協力していく。
- (ウ) 都市と農村の交流促進に向けては、関係機関と先進的に取り組んでいる地域の情報収集や興味を示す農業者とともに地域の活性化に向けて支援する。
- (エ) 地域の農業・農村への理解を促進するために、関係機関や農業者組織と連携し地域のイベント等関係機関とともに農村の魅力にふれあう機会を進めていくことが求められる。
- (オ) 農村の豊かな資源を活用した、地域が可能な農泊や農業体験等の取り組みを関係機関や農業者組織と検討していく。
- (カ) 他産業と連携して町村を越えた地域一丸となったPR活動を支援していく。

(2) 普及活動の地域課題

ア 地域係の担当活動区域（苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町）

(7) 現状と改善方向（地域係）

a 苫前町

(a) 農業・農村の現状（苫前町）

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・「YES!clean」の認証は、水稻、畑作（大豆、小豆）及び園芸作物（かぼちゃ、メロン、スイートコーン、ミニトマト）で取得しており、エコファーマーや水稻における特別栽培の実践等、生産者の環境負荷低減に対する意識は高い。
- ・農協や利用組合が主体となった米や豆類の収穫乾燥調整や、小麦や大豆のは種及び収穫作業の受委託が行われており、農業機械の有効活用や個々の農家の作業軽減が図られている。
- ・平成30年度にスマート農業推進協議会が発足し、令和元年度に産地パワーアップ事業を活用してスマート農業に関する機材が導入されており、農作業の省力化機材の有効活用が重要である。
- ・畑作物では、てんさいの直播栽培において初期生育の向上が課題となっている。また、豆類においては湿害と連作障害の発生が問題となっており、排水対策や適切な輪作が必要となっている。
- ・施設園芸では、自動換気装置や換気扇が設置され、管理作業の効率化や品質の向上が図られているが、手作業が多いため継続的な労働力の確保やさらなる省力化が課題となっている。
- ・酪農は、規模拡大の意欲はあるが粗飼料の確保に課題があり、進まない状況にある。また粗飼料品質の向上と繁殖改善が必要だが、近年の取り組みで乳質は改善傾向にある。
- ・GAPについては、認証を取得している農家がない状況である。
- ・家畜糞尿の活用とクリーン農業の実践のために、良質な堆肥を生産、供給する体制を整備して、耕畜連携を推進する必要がある。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・水稻は、良食味品種の「ななつぼし」と「ゆめぴりか」を意欲的に生産しており、平成30年に完成した収穫乾燥施設で調整して出荷されている。
- ・秋まき小麦の「つるきち」や大豆の「ユキシズカ」など、加工業者のニーズ（うどんや納豆）に応えた品種を栽培をしており、収量、品質の高位安定生産が課題となっている。
- ・野菜については、共同選果施設から安定的な市場供給を行っているが、ミニトマトやかぼちゃについては平均反収がやや低い。
- ・かぼちゃの加工に取り組む生産者がおり、安定的な販売について支援が必要になっている。また、管内の加工業者と連携したしょうが生産等、新たな取り組みも見られるため栽培支援や販売支援が必要になっている。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・過去5年間の新規就農者は9名で、若手農業者に対して学習や交流の機会の提供が必要となっている。
- ・若手農業者や女性農業者は学習意欲が高く、「農業基礎ゼミナール」や「Windmilk」、「ポテイロン」など組織に加入して活動している。
- ・耕種や畜産で設立された複数戸法人は、地域内外の農地を引き受けて規模拡大と経営基盤の強化を図り、併せて農作業受託をする等、地域の中核的な役割を担っている。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・苫前町の地域学校協働活動において、農協青年部と普及センターが連携して小学校の学校農園を支援している。

(b) 改善方向(苫前町)

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・「YES!clean」等の農薬や肥料を低減した栽培において、安定した収量・品質を確保するために、耕種的防除の徹底や予察防除の実践、耕畜連携による堆肥の利用体制整備について支援する。
- ・農作業の受委託においては、土壌病害虫の拡大に留意し、地域で生育を揃える等の品質を高める取り組みについて支援する。
- ・スマート農業の機材の導入は進んでいるが、露地作物においては可変施肥等の先進的な技術実践につながっておらず、より効率的な活用ができるように支援する。
- ・畑作物は、連作障害を回避するために輪作を確実にを行い、排水対策として心土破碎や簡易的な暗渠施工等を実施する。
- ・施設園芸は、労働環境の改善で労働力の確保を進め、労働力の効率的な活用を支援する。
- ・酪農は、牧草や飼料用とうもろこしの収量・品質向上で粗飼料の自給率を高め、乳質や繁殖成績の改善を継続して支援する。また、関係機関と連携して協業型法人の運営について支援する。
- ・GAPについては、認証取得の前段階として「GAPをする」ことを念頭に農家への啓蒙を図る。
- ・飼料作物や畑作物においては、堆肥や緑肥等の有機物の投入による土づくりを適切に実施して安定生産を目指す。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・水稻の食味（蛋白質含有率）は年次変動が大きいいため、土壌条件に合った施肥や初期生育を向上させる水管理等を支援して良食味米の安定生産を目指す。
- ・畑作物は品種特性に応じた栽培について情報提供して、安定的な高品質生産を支援する。
- ・野菜については、「YES!clean」の栽培基準に基づいて技術の統一図り、収量の高位平準化を目指す。
- ・町内で生産される農産物や加工品について、効果的なPRや販路拡大で、生産者の意欲を高め地域の活性化につなげたい。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・青年農業者には、農業基礎ゼミナールにおける学習活動を進める。また、農協青年部と連携して、充実したグループ活動ができるように支援する。
- ・女性農業者には、直売や農産加工を通じた交流の場を提供するとともに、グループ活動を通じて農業技術の習得や積極的な経営参画に向けて意識の向上を図れるように支援する。
- ・複数戸法人に対しては、農業機械の有効利用や雇用環境の整備等について情報提供や支援をする必要がある。

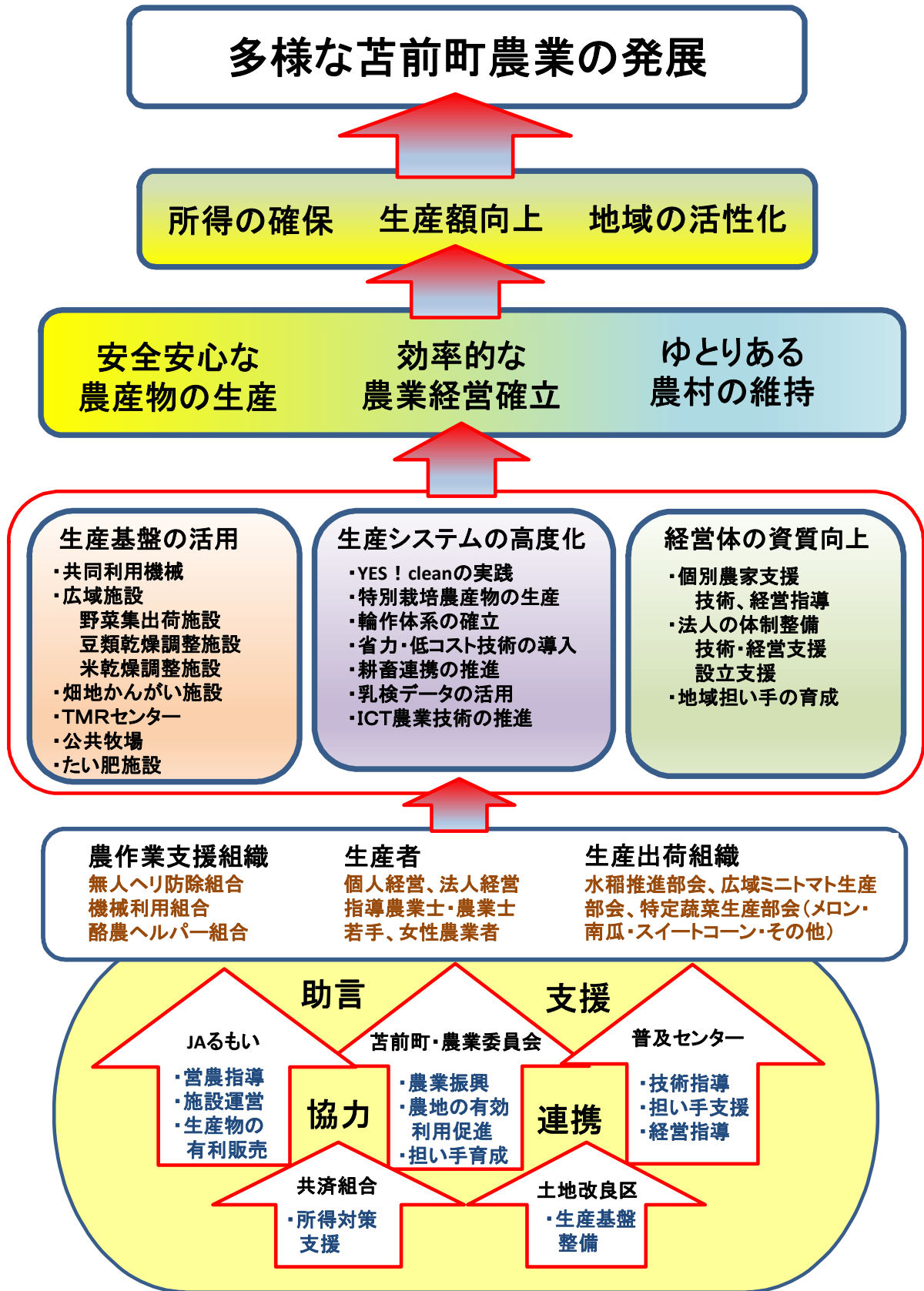
○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・学校農園支援については、地域の子供が農業に対する理解を深め、農業に興味を持ち、将来の担い手になりたいと感じる内容となるように支援する。

(c) 具体的な改善対策（苫前町）

区分	改善対策	連携・役割分担の内容			
		普及センター	市町村	農協	その他
持続可能で生産性が高い農業・農村の確立	環境に優しい農業の実践	技術支援	計画策定	組織支援	
	利用組合による作業効率の向上	技術支援	事業導入	運営支援	
	スマート農業機材の有効活用	技術支援	事業導入	組織支援	I C T 協議会
	畑作物の安定生産	技術支援	組織支援	組織支援	
	施設園芸における省力化の推進	技術支援	活動支援	組織支援	
	粗飼料品質の向上	技術支援	事業導入	技術支援	TMRセンター
	耕畜連携の推進（家畜糞尿の適正利用）	技術支援	事業導入	活動支援	
国内の農産物の需要を確保する	良食味米の安定生産	技術支援	組織支援	有利販売	
	実需者のニーズに応じた畑作物生産	技術支援	組織支援	有利販売	
	野菜の収量・品質の向上	技術支援	生産振興	有利販売	
	農産物加工による地域活性化	情報提供	組織支援	情報提供	
多様な人材が活躍する農村の確立	地域連携型法人の設立・活動支援	運営支援	組織支援	運営支援	
	新規就農者の学習活動支援	活動支援	組織支援	活動支援	
	女性農業者の活動支援	活動支援	組織支援	組織支援	
農道民の理解に農業を支援	学校教育や消費者交流を通じた農業や農村生活のPR	活動支援	計画策定	活動支援	町公民館

(d) 振興構想図(苫前町)



b 羽幌町

(a) 農業・農村の現状(羽幌町)

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・若手農業者を中心に、水稲では疎植栽培の導入や中苗マット密苗栽培、畑作では大豆の狭畦栽培など省力栽培技術の取り組みが増えてきている。
- ・米・麦の乾燥調製はライスセンターに集約して行われている。2組織ある無人ヘリコプターの防除組合は、水稲防除の約35%と小麦を中心に一部の員外を含めた防除を受託している。ドローンを導入し農薬散布を行う個人や営農集団も増えている。
- ・水稲は、ブランド米「ゆめぴりか」の収量、品質向上に向けて取り組んでいる。
- ・畑作は、排水対策や土壌改良、小麦の連作回避を行うことで、安定生産に向けた取り組みが必要である。
- ・園芸は、担い手の高齢化や規模拡大、近年の低収等により作付けが減少している。
- ・酪農は、乳質改善への意欲は高いものの、結果につなげていない農場もある。
- ・特別栽培米生産グループは、農薬・化学肥料を減らし環境に配慮した栽培方式に取り組んでいる。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・高付加価値化を志向する農業者を支援し、町による農業の6次産業化の推進を行っている。
- ・小麦は連作による品質低下や雑草の発生が問題となっている。
- ・うるち米は、留萌管内において「ゆめぴりか」のプレミアム米販売が行われている。しかし、当地域では年次によって品質に差があるため、高位安定化が必要である。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・Uターン就農が近隣市町村と比較して多く、J A青年部羽幌ブロックには42名が加入しているが、約97戸の農家の内50歳未満の男性は28人であり、農業の担い手は減少傾向にある。このため1戸当たり経営面積は現在約16haであるが、10年後には20haを超えてさらに拡大することが推察される。
- ・法人組織がある地域では、従業員や後継者など担い手が確保・育成されているが、このような複数戸法人は3組織に留まっている。
- ・複数戸法人が農地の受け手として活躍し、そば・大豆・小麦の収穫作業など農作業受託も行っている。また、規模拡大に合わせて水稲栽培の省力化を図っている。
- ・麦類、豆類のは種・収穫作業等の共同化や作業受託組織は少なく、町外の大規模農家や組織への委託も見受けられる。
- ・若手農業者に関して、「羽幌町・初山別村ピンクファイブ」が結成され新たな活動を始めている。新規就農者が農業の基礎を学ぶ場が少ないため、本所管内の若手農業者・若手女性農業者を中心とした「農業基礎ゼミナール」を開催し、地域をまたいだ学習の場を提供している。J A青年部では作物栽培について学習会により技術の習得を行っている。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・直売活動を行う農村女性グループは、地域活性化の一翼を担っているが、構成員の高齢化や減少により現状維持の取り組みになっている。
- ・J A青年部羽幌ブロックでは、青年が地域の小学生に対して農作業体験を通し、食育活動を行っている。

(b) 改善方向(羽幌町)

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・地域農業の持続に向けて省力栽培技術の導入拡大を推進する。水稲は、疎植栽培や中苗マット育苗栽培、水稲直播栽培について、畑作は、大豆密植栽培と秋まき小麦の大豆間作栽培等、さらなる省力栽培技術を検討する。
- ・ライスターミナルの効率的な利用に向け適期収穫判定等を支援する。無人ヘリ防除組合には、薬剤選定や病害虫発生情報の提供などを行い、効果的な病害虫防除を支援する。
- ・水稲は高い産地評価を継続して得るため、今後も水稲部会を中心に基本技術を励行し良質米生産を推進する。また、「ゆめぴりか」等ブランド米の生産はもとより、低コスト栽培法や飼料用米等の多様な米生産を検討する。
- ・畑作は、収量性向上に向けた透排水性の改善、大豆や緑肥作物等の導入による連作障害の回避と堆肥の施用による地力の維持・向上を図る。
- ・園芸は、規格内収量と品質向上や作期・作型の拡大による労働力分散を図る。
- ・酪農は、自給飼料生産技術や乳質改善を中心に、生乳生産性の向上を目指す。
- ・特別栽培等クリーン農業に取り組む生産者を支援する。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・6次産業化を志向する農業者と関係機関の連携が円滑に行われるよう、優良事例や加工に関する情報提供及び支援を行う。
- ・小麦は緑肥の導入や有機物の投入、連作を回避することにより、収量の増加と品質の安定を促進し、市場評価を高めていく。
- ・米は良食味米の生産を基本に、地域の催事での販売やふるさと納税の返礼品等に活用することで、高品質・良食味をPRしブランド力を高める。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・省力栽培技術導入による栽培体系の改善等により、25～30ha規模のモデルとなる経営体の育成を促進する。
- ・法人設立に向けた研修会及び先進地調査等を関係機関と連携して行い、複数戸による農業法人の設立を促進する。
- ・農村地域をPRし、地域の活性化につながる若手農業者の活動を支援する。
- ・地域の担い手である「羽幌町・初山別村ピンクファイブ」は、新たなメンバーへの参加を募りながら能力の向上及び会員相互の交流を図る。若手農業者・新規就農者を対象に「農業ゼミナール」を開催し、若手農業者・若手女性農業者の栽培技術向上と仲間づくり及び経営参画を推進する。

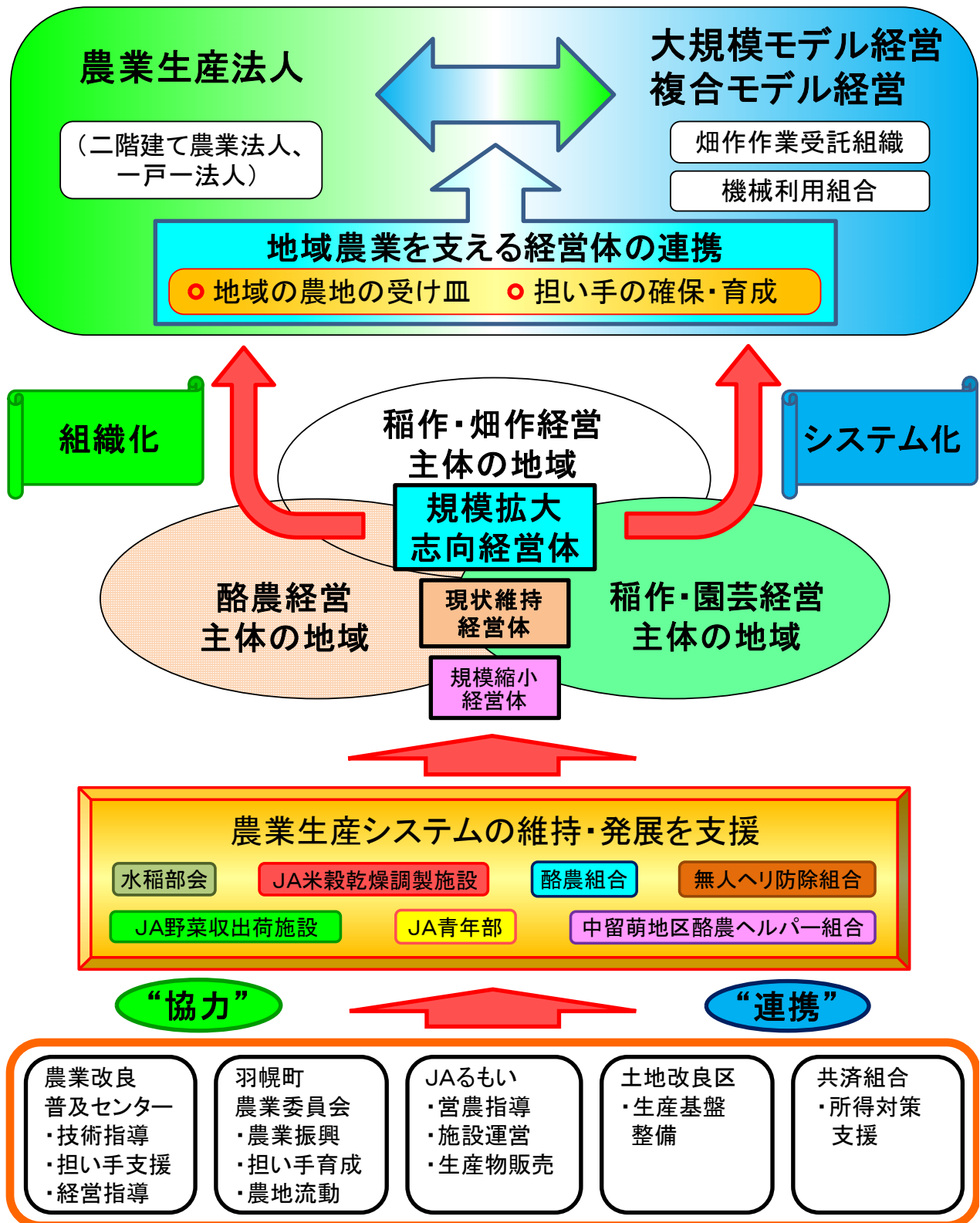
○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・直売活動を行う農村女性グループの活動支援を継続するとともに、ネットワーク活動を通じた交流や情報交換により活性化を図る。
- ・JA青年部の活動支援を行うことで、食育活動を通して地域との交流を推進する。

(c) 具体的な改善対策（羽幌町）

区分	改善対策	連携・役割分担の内容			
		普及センター	市町村	農協	その他
農業・持続可能な農村の生産性の確立	省力栽培技術の導入と拡大	技術支援	事業支援	営農指導	生産法人
	ブランド米の生産拡大	技術支援	生産振興	販売促進	
	畑作物の収量・品質向上	技術支援	生産振興	販売促進	
	野菜の規格内収量向上	技術支援	生産振興	販売促進	
	生乳乳質の安定的向上の推進	技術支援	生産振興	営農指導	
	クリーン農業の促進	技術支援	生産振興	営農指導	
農業・国内外の需要を取り込む	6次産業化につながる取り組み支援	技術支援	生産振興	活動支援	振興局農務課
	農産物の利活用と付加価値向上の支援	利活用促進	活動支援	利活用支援	
	野菜の収量・品質の向上	技術支援	生産振興	有利販売	
	農産物のブランド力の向上	技術支援 利活用促進	生産振興	販売促進 利活用促進	
農業・多様な人材が活躍する	農業法人設立による従業員や後継者を含めた担い手の確保	技術支援	設立支援	設立支援	振興局農務課
	地域活性化につながる若手農業者の活動支援	運営支援	活動支援	活動支援	J A 青年部
	女性や若手農業者の栽培技術向上	技術支援	活動支援	営農指導	J A 青年部
	羽幌町・初山別村ピンクファイブ活動支援	運営支援	活動支援	活動支援	
農業・道の村の理解に農業を支援	女性グループの起業活動支援	活動支援	活動支援	活動支援	町公民館
	女性グループのネットワーク活動支援	運営支援	活動支援	活動支援	

多様な経営体による豊かな羽幌町農業の確立



c 初山別村

(a) 農業・農村の現状(初山別村)

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・ 水稲作付面積は、高齢化による全面転作や営農中止から減少傾向にあったが、ここ数年は横ばいとなっている。今後のさらなる担い手不足に備えるため、水稲湛水直播栽培が試験的に取り組まれている。
- ・ 初山別村はもち米の生産団地であり、産地評価は高品質米を生産していることから高くなっている。特別栽培米生産組合は、フェロモントラップによる予察を参考に効果的な防除を行い、高品質なもち米を生産している。
- ・ 水稲の作付けは、近年の高温傾向により早生品種に代わって収量性の高い中生品種が増加し、低温年のリスクが高い品種構成となっている。そのため、気候によって玄米品質にムラが出やすい傾向にあることから、ほ場にあった施肥設計が必要となっている。
- ・ 畑作物は豆類の作付けが減少し、小麦を中心に栽培している。「きたほなみ」の他に「ゆめちから」が導入され、品種特性に応じた栽培法が定着している。一方で小麦の作付けが増加し連作による土壌病害の発生が見られ、収量・品質を不安定にしている。
- ・ 冬場の労働力を有効に活用して所得を確保するため、冬野菜の栽培が行われている。
- ・ 畜産は酪農・肉牛経営が行われており、農業産出額の6割を占めている。生乳出荷量、販売頭数ともに安定している。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・ もち米・小麦粉など地場農産物を活用した加工等他産業も含めた地域活性化へつなげる動きが見られる。
- ・ 特産品としてハスカップを利用した加工品が製造・販売されている。一部地域では、高齢農家を中心としてハスカップ栽培に取り組んでおり、平成30年から地元企業へ加工原料として出荷している。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・ 深刻な担い手不足を解決するために、初山別村まち・ひと・しごと創生総合戦略が策定され、新規就農者3名確保が計画されている。
- ・ 初山別村地域担い手育成センターを中心に担い手の確保・育成に向けた支援を行っている。地域担い手育成センターが中心となり、関係機関を交えた新規就農者サポートチームが結成され、新規就農者支援を行っている。
- ・ 技術講習会などの機会が少なく、特に若手農業者の学習の場が求められている。
- ・ 青年農業者グループでは、「羽幌町・初山別村ピンクファイブ」が結成され、新たな活動を始めている。
- ・ 稲作と畑作の複合経営が主であり、個別経営が中心である。農業法人は9組織あり、一部組織は農地の受け入れや作業受託を行っている。
- ・ 高齢化の進行により個人による防除や収穫・乾燥調製は困難となっており、高性能防除組合(無人ヘリコプター)や機械利用組合等への委託が増加している。
- ・ 平成23年に受託組織が発足し受委託体制が強化されたが、小麦の作付面積増加によりオペレーターの過重労働が懸念される。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・ 若手農業者が修学旅行生に対して、農泊や農業体験受け入れ等の農村ならではの地域資源を活用して、農村の魅力を発信している。

(b) 改善方向(初山別村)

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・省力栽培技術である水稲湛水直播栽培の生産性向上を支援し、労働力と農地の効率的利用により水稲作付面積を維持する。
- ・特別栽培米等クリーンな農産物の安定生産に向け、引き続き栽培に関する技術的な支援を行う。
- ・水稲栽培技術の高位平準化を進めるとともに、ほ場にあった施肥設計の推進により品質向上と収量の高位安定を図る。
- ・畑作は、省力かつ水稲との作業競合が少ない大豆の狭畦密植栽培を推進し、小麦の連作回避につなげる。
- ・冬野菜は、安定生産と品質向上に向けた支援を行う。
- ・畜産は、自給飼料生産コストの低減や良質乳安定生産に向けた支援を行う。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・もち米、小麦粉などの地場産農産物の利活用を推進する。
- ・村にある農水産物加工試験研究センターと連携し、ハスカップ栽培及び活用拡大に向けた支援を行う。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・農地及び新規就農の受け皿となる法人の活動を支援する。
- ・今後の地域農業を担う新規学卒者が限られているため、新規参入者の受入制度により、関係機関とともに研修生を受け入れる農業法人及び指導農業士と連携して担い手の育成・確保を促進する。
- ・研修生募集に際して、地域での研修内容のPRやカリキュラム作成の支援を引き続き行う。
- ・普及センターは関係機関と連携して、若手農業者・新規就農者を対象に「農業基礎ゼミナール」を開催し、栽培技術向上と仲間づくり及び経営参画を推進する。
- ・青年農業者グループである「羽幌町・初山別村ピンクファイブ」は、新たなメンバーへの参加を募りながら、能力の向上及び交流を図る。
- ・受委託システムの強化を推進し、労働の軽減、生産コスト低減による生産性の向上を促進する。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・関係機関と連携して、農泊や農業体験等の取り組みを検討していく。

(c) 具体的な改善対策(初山別村)

区分	改善対策	連携・役割分担の内容			
		普及センター	市町村	農協	その他
・ 持続可能で生産性が高い農業 農村の確立	水稲省力化・安定生産支援	技術支援	生産振興	販売対策	もち米生産組合
	クリーン農業の促進	技術支援	生産振興	生産販売対策	
	大豆栽培の推進による小麦連作回避	技術支援	生産振興	販売対策	
	冬野菜の安定生産と定着	技術支援	生産振興	販売対策	
	良質乳の安定生産の促進	技術支援	生産振興	販売対策	
国内外の需要を取り込む農業・農村の確立	農畜産物の利活用と付加価値向上の支援	技術支援	技術支援 加工支援	活動支援	
	特産物（ハスカップ）の生産拡大	技術支援 販売協力	技術支援 加工支援		
・ 多様な人材が活躍する農業 農村の確立	新規参入者の受入体制の整備と構築	研修制度 策定 運営支援	計画策定	運営支援	農業委員会 指導農業士 農業生産法人 振興局農務課
	新規就農者の育成	技術支援	計画策定	営農指導	指導農業士
	地域連携型法人の活動支援	運営支援	育成助成 生産振興	活動支援	農業士 JA青年部
	農作業受委託システムの定着推進	組織支援	組織支援	運営支援	振興局農務課
道民の理解に支えられる農業・農村の確立	地域資源を活用した農村の魅力発信支援	情報提供 活動支援	活動支援	活動支援	

初山別村農業の維持・発展 ～次世代に受け継がれるゆとりある農業～

多様な経営体の連携による地域力向上

新規就農の受け皿・農地流動化・作業受委託
・栽培の団地化・輪作体系確立・・・

地域を担う中核農家

法人

新規
就農

稲作

畑作

畜産

新たな水田農業システムの 確立

- ・作業受託組織の運営支援
- ・地域連携型法人の設立支援
- ・省力栽培技術の導入推進

所得確保による 経営の安定化

- ・栽培技術定着による生産性の向上
- ・地域システム活用によるコスト低減
- ・農畜産物付加価値向上
- ・経営管理技術の向上

担い手育成センター

- ・担い手の確保・育成
- ・法人の支援体制整備
- ・新規参入者サポートチーム
(指導農業士、JA、地区理事、
役場、農業委員会、普及)

“連携”

農業生産システムの維持・発展を支援

“助言”

JAるもい

- ・営農指導
- ・施設運営
- ・生産物の有利販売

初山別村

農業委員会

- ・農業振興
- ・担い手育成
- ・農地流動

普及センター

- ・技術指導
- ・担い手支援
- ・農業経営指導

共済組合

- ・所得対策
支援

土地改良区

- ・生産基盤
整備

d 遠別町

(a) 農業・農村の現状(遠別町)

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・水稲経営を中心にライスセンター等の作業支援体制が整備されているが、経営規模が大きく、担い手が不足していく状況にあり省力化と技術の平準化が求められる。
- ・地域連携法人「緑進」を核に、他産業から参入した法人や大規模畑作農家と連携した受託体制が構築されており、G N S S等の導入による省力化への関心が高まっている。
- ・水稲(もち米)は、共同乾燥調製により品質は向上し評価は高まってきているが、稲作北限地でさらに近年は早生種から中生種に作付けがシフトしたため、生産量の年次変動が大きい。
- ・畑作は小麦の作付けが急増し販売額は増加傾向にあり、小麦の連作回避を目的に大豆の狭畦密植栽培が行われている。しかし、転作田が多く、透排水性不良が問題となっている。
- ・野菜はピーク時に販売金額が3億円を越えたが減少傾向で、特に特産のメロンの減少が大きい。今後、高齢化と労力不足の進行に伴い、施設野菜はさらに生産減少が予想される。
- ・酪農は町内農業粗生産の約7割を占め、1戸当たり出荷乳量549t/年、経産牛飼養頭数69頭と留萌管内でも比較的規模の大きな農家が多い。しかし、施設の老朽化により規模拡大ができず、出荷乳量が減少傾向にある。乳質は農業者の意識改革により、改善傾向にある。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・地元企業との契約・作業受委託により、しそや赤キャベツなどの加工用作物が生産されており、加工用の紫さつまいもも導入された。しかし低収で生産が不安定である。
- ・もち米は硬化性が高く加工適性に優れた「きたふくもち」の作付けが全道一進んでいて、実需者からの評価も高い。また、もち玄米について、地元飲食店やふるさと納税返礼品等販売されている。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・青年農業者グループは4Hクラブがあり、5年前に新規会員が増え、クラブ運営も安定してきている。
- ・若手農業者には、本所管内の若手農業者・若手女性農業者を中心とした「農業基礎ゼミナール」を開催し地域を越えた学習の場を提供している。
- ・北海道遠別農業高校の生徒は将来の担い手として期待されている。令和元年にASIAGAP認証を取得した。また、「遠別農業高等学校農業教育推進連携協議会」が設立され、地域の支援体制が構築されている。また、関係機関と連携し加工用の紫さつまいもの栽培試験を行っていて、今後採苗試験を行い、町に苗を供給する構想がある。
- ・女性グループは数が多く、特に直売グループの販売額が伸び、経営の一部門として定着してきた他、食育活動にも取り組み、地域農業の理解やPRに努めている。一方で構成員の高齢化が進み、新たな担い手が加わらず、活動の継続が危惧されるグループもある。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・町内の4Hクラブは、景観緑肥栽培等による町民農園の管理、町内の祭りへの参加、ポップコーン栽培を通じた幼児センターでの食育を行っていて、地域での認知度が高まっている。

(b) 改善方向(遠別町)

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・ 水稲及び小麦、豆類の受託組織の育成支援を継続し、組織の連携と地域営農システムの強化を促進する。
- ・ G N S Sによる省力化について、関係機関と連携しつつ、研修会の実施や先進事例の情報提供等を行い現状に適する形で導入を検討する。
- ・ もち米は高品質米の安定供給に向けて、初期生育の確保や不稔防止の対策などの基本技術の励行及び、早生品種で耐冷性が強い「きたふくもち」の作付けを推進する。
- ・ 畑作は麦類の作付増加に対応し、転作田を中心に基本技術の徹底及び排水対策を推進する。作付けが少ない大豆については、省力かつ水稲との作業競合が少ない大豆狭畦密植栽培の拡大を推進し、小麦の連作回避につなげる。一戸当たり経営面積規模の拡大に対応し、てんさいの直播栽培導入を推進し、輪作体系の整備を図る。
- ・ 園芸は、少量品目の安定生産のための適正管理、病害虫防除技術向上を推進する。
- ・ 酪農は出荷乳量について、関係機関と連携して施設への投資を推進する。また、乳質については、改善意識を維持しつつ、乳房炎菌に合わせた対策を推進する。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・ 加工用作物の収量増加に向け、栽培技術と先進技術の活用面から支援する。また、紫さつまいもは栽培技術確立に向け、関連機関と連携し活動を行う。また、色素取り以外の特産物開発を支援する。
- ・ もち米は品質維持に向けた栽培支援を行い、もち玄米については要請に応じた支援を行う。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・ 4 Hクラブに対して、プロジェクトや学習会を通じた能力向上を図るとともに、継続的な活動を行えるように支援を行う。
- ・ 若手農業者・新規就農者を対象に「農業基礎ゼミナール」を開催し、能力の向上及び交流を図る。
- ・ 紫さつまいもをはじめとした栽培管理・試験、G A Pの継続等に関する支援を行う。
- ・ グループ活動の積極的なP Rや活動で培った技術の伝承により、活動に対する地域の関心を高め、後継者確保への動機付けを行う。

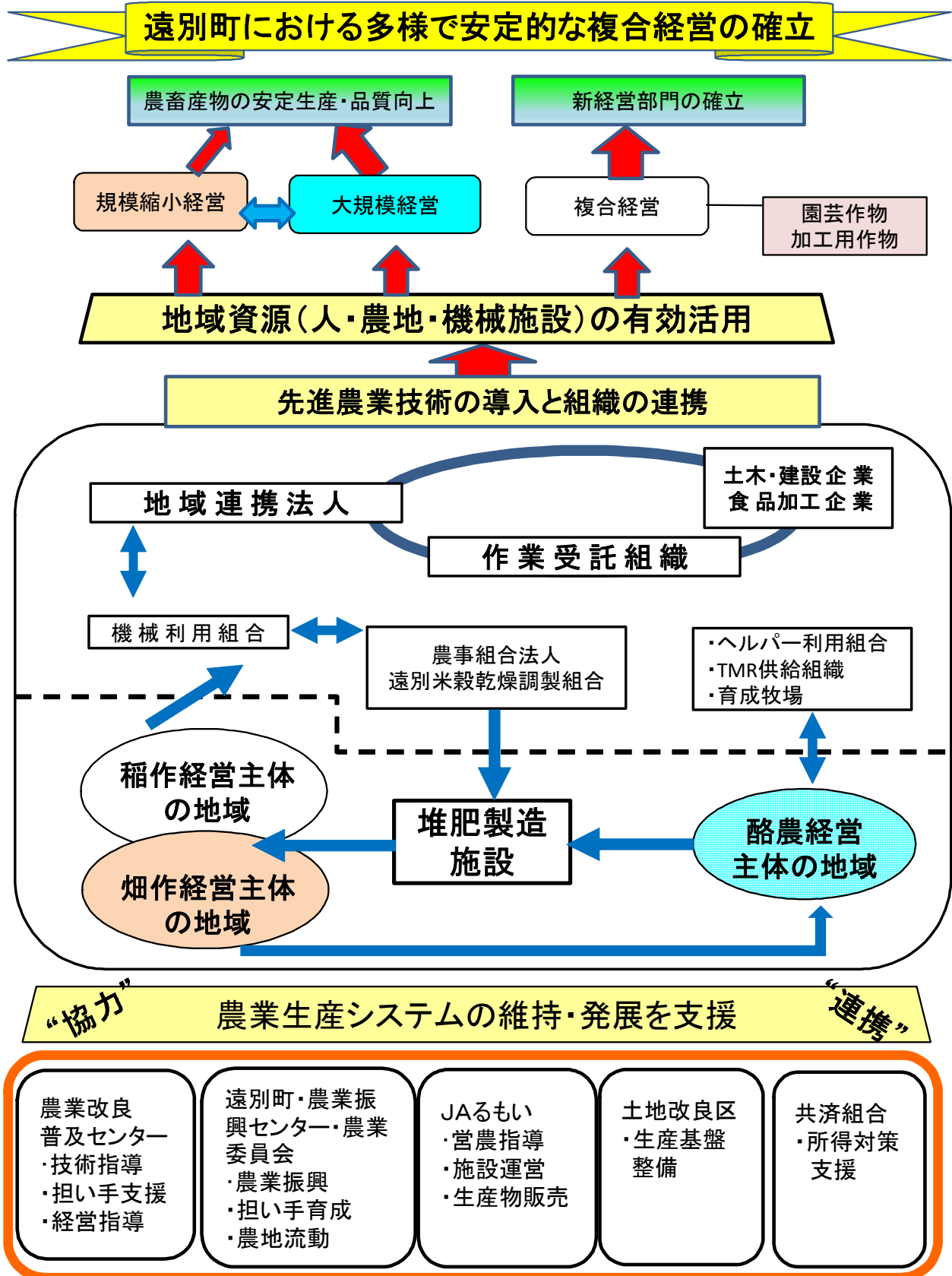
○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・ 4 Hクラブの活動支援を通じて、農業に対する地域の関心を高めていく。

(c) 具体的な改善対策(遠別町)

区分	改善対策	連携・役割分担の内容			
		普及センター	市町村	農協	その他
持続可能な生産性が高い農業の確立 ・ 農村の確立	地域連携型生産組織の育成	活動支援	組織支援	運営支援	
	地域営農システムの強化	組織支援	組織支援	運営支援	
	もち米安定生産技術の普及	技術支援	生産振興	販売対策	もち米生産組合
	畑作物の安定生産技術の普及	技術支援	生産振興	販売対策	
	振興野菜の生産技術の確立	技術支援	生産振興	販売対策	
	生乳出荷量・品質向上	技術支援	生産振興	営農指導	
国内外の需要を取り込む農業の確立 ・ 農村の確立	加工用作物の生産技術確立	技術支援	組織支援	運営支援	
	もち米品質維持、利活用法の支援	技術支援 加工支援	組織支援	加工支援 販売対策	
多様な人材が活躍する農業の確立 ・ 農村の確立	遠別町4Hクラブの活動支援	運営支援	活動助成	活動支援	農業委員会
	遠別農業高等学校の活動支援	技術支援	活動支援	活動支援	遠別農業高等学校農業教育推進連携協議会
	特色ある農産物の生産支援	技術支援	生産支援	活動支援	
	女性グループの活動継続支援	運営支援	活動支援	活動支援	
道民の理解に支えられる農業の確立 ・ 農村の確立	町民・消費者との交流を通じた農業PR	活動支援	活動支援	活動支援	

(d) 振興構想図(遠別町)



e 天塩町

(a) 農業・農村の現状（天塩町）

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・飼料基盤に恵まれた草地型酪農専業地帯であり、自給飼料に立脚した畜産が営まれている。一方、泥炭土や粘質土壌が多く自然災害の影響を受けやすい排水不良のほ場が多いうえ、農家の減少に伴い、乳牛1頭当たりの草地面積が拡大している。そのため、適正な肥培管理がなされていない、草地植生の悪化が進んでいる。
- ・平成19年「天塩町放牧の会」が設立され、コスト低減や資源循環とゆとりある酪農経営を目指したグループ活動が行われている。
- ・家族労働による経営が中心であり、新規の施設投資を抑えた酪農経営が行われている。給餌通路が狭いつなぎ牛舎が多いうえ老朽化も加わり、作業効率が低く、地域の生産力が上がっていない。
- ・中山間地域が多いため、トラクタへのGNSSガイダンスシステムや自動操舵システム等の搭載やセンサー機能付きの農作業機械の普及が遅れており、熟練者でなければできない作業が依然と多く、ほ場作業の効率化が必要となっている。
- ・衛生的乳質の向上は地域の課題であり、令和2年の合乳体細胞数30万個/ml以下の割合は90.1%と、全道平均の98.5%に比べ低く、全道水準の乳質へ改善が望まれる。
- ・後継者不足のため高齢を理由に経営中止となる搾乳農家が増加し、牛舎の遊休化が目立っている。酪農以外の畜産経営への転換について、地域全体として検討がなされていない。現在、一部和牛の繁殖に取り組む生産者や異業種法人の参入も見られるが、地域全体としては肉牛経営を拡大する意識が低い。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・地域内の農畜産物を活用した、6次産業化への取り組みが定着しつつあり、アグリビジネスや農商工連携など関連産業との連携強化を積極的に進める動きが出てきている。
- ・乳製品加工グループへの若い農業者の加入が少なく、会員の高齢化に伴い、組織の継続が課題であり、若い農業者への世代交代が急がれる。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・60歳以上の経営主は全体の4割を超え、後継者不足も進行し、約6割の酪農家で後継者がいない。そのため酪農家戸数が減少し、地域の生乳生産量低下が著しく進んでいる。現在まで7戸が第三者経営継承制度を活用し新規参入をしているが、今後さらなる新規参入が期待される。また、就農後の支援体制では指導農業士・農業士の力が十分発揮されていない。
- ・コントラクタ組織が設立され、収穫作業等の外部委託が可能となった。しかし、コントラクタを補助的に利用することに留める経営が多く、労働軽減の目的が果たされていない。そのため、酪農家の労働過重は改善されておらず、生乳生産量は頭打ちである。
- ・JA青年部やJA女性部、乳製品加工グループ等の組織があるものの、相互の連携が弱い。また新規就農者が農業技術や経営の仕組みを習得したり、仲間づくりの機会が少ない。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・農業青年等の地域行事への参加により、地産地消の活動が行われ、地域住民への周知も定着してきているが、外部への情報発信や観光客へのPR等が不足している。
- ・夏期は観光ルートに位置していることから、観光客が多く立ち寄る地域である。地元ならではの食を提供をし、雄大な草地や放牧風景など農村ならではの豊かな風景を提供する。
- ・都市生活者が農村に滞在したり、後継者のパートナーを迎え入れるための快適な生活環境の整備が遅れている。

(b) 改善方向（天塩町）

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・完全更新だけでなく、簡易草地更新を組み合わせることで草地の植生改善を図るとともに、土地条件に応じた肥培管理を提案する。また、飼料用とうもろこしを取り入れ強害雑草対策を行う。
- ・集約放牧志向農家の拡大と研修の充実、関係団体との意見交換等を実施し、経営安定に向けた技術支援を図る。
- ・老朽化した牛舎の改築や更新、作業効率の悪い旧式牛舎の改善に対して、畜産クラスター事業や制度資金等を活用し、搾乳ロボット、キャリロボ搾乳、自動給餌機等の省力化システムの導入を図る。投資に当たっては、個々の経営や技術を把握し、その経済性を十分検討した中で生産性の向上を支援する。
- ・先行してほ場作業のスマート化に取り組んだ農場の労働生産性を調査、整理し、これから導入を検討している農場に対して、労働力、土地条件、投資額、技術力等を多角的に判断し、個々の経営条件に適した情報を提供する。
- ・地域全体での乳質の向上を目指し、良質乳生産への意識改革と牛舎環境、ミルクシステム、搾乳手技の見直し等、総合的な改善を行う。
- ・豊富な草資源や遊休牛舎を活用し肉牛の導入を推進する。先進的に導入している異業種法人等との連携を強化し、研修やセミナー等の開催を実施する。また、酪農との複合化や和牛経営への転換に際し支援を行う。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・地域内で生産された畜産物を活用した商品開発の販売促進を商工関係と連携して進め観光と農業が一体化した動きへの展開を進める。また、農畜産物の加工施設の設置の検討を進める。
- ・乳製品加工グループの若手会員が中心となり、新規会員の勧誘を図り、酪農地帯ならではの加工技術の継承と食文化を広く地域に定着させていく。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・関係機関と連携し、農業後継者に対する支援制度の情報発信の強化、牛舎環境の整備に係る相談窓口の設置等、継承しやすい環境整備に取り組む。新規参入事業をさらにテコ入れし、国や道等の制度を活用しながら、道内外からの就農希望者の受け入れを促進する。また、研修生の受け入れ側への援助を充実するとともに、指導農業士・農業士と連携して、就農後のフォローアップ体制の強化を図る。
- ・地域の生産量拡大と個別経営体の労働環境を改善するため、酪農支援システム（コントラクタ、酪農ヘルパー、TMRセンター）の利用拡充や普及を図る。また育成預託施設の充実を図り、地域一丸となった支援システムの構築を支援する。
- ・各種団体組織のリーダーを育成するために、特定の組織活動に特化することなく地域内で幅広く横断的に活動できる機会を作る。また関係機関と協力し、るもい農業基礎ゼミナールを通して新規就農者の育成を図る。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・各種地域行事への積極的な参加により地域住民への浸透を図り、地産地消の活動をより積極的にPRする。地域で生産される乳製品や牛肉等を飲食店で消費する活動を展開する。
- ・豊かな自然景観の広がる酪農地帯の特色を発揮するため、都市と農村の交流やインターネット等を活用し、都市から農村への人の循環を進める。
- ・仕事と生活が一体となっている農業の現場で、「住みやすさ」と「働きやすさ」が両立し、家族ともに過ごす時間が充実している農場の事例紹介を行う。

(c) 具体的な改善対策(天塩町)

区分	改善対策	連携・役割分担の内容			
		普及センター	市町村	農協	その他
持続可能で生産性が高い農業・農村の確立	自給飼料に立脚した畜産の推進	技術支援	活動支援	営農指導	農業支援センター
	集約放牧の推進	技術支援	活動支援	営農指導	農業支援センター
	牛舎省力化システムの推進	技術支援	活動支援	営農指導	農業支援センター
	個々の経営条件に適したスマート農業の推進	技術支援	情報提供	営農指導	農業支援センター
	衛生的乳質の向上	技術支援	活動支援	営農指導	NOSAI
	和牛の振興と経営支援	技術支援	活動支援	営農指導	農業支援センター
農村の確立 国内外の需要を取り込む農業・農村の確立	農業者が主体の地域と連携した6次産業化の取り組みを推進	情報提供	情報提供	情報提供	農業支援センター
	若手農業者に対する6次産業化の啓発	情報提供	情報提供	情報提供	農業支援センター
農業・農村の確立 多様な人材が活躍する	新規参入者の円滑な受け入れ体制の充実	情報提供	情報提供	情報提供	営農担い手協議会
	コントラクタ等の地域営農支援システム利用の推進	技術支援	活動支援	営農指導	農業支援センター
	次世代の地域リーダー育成支援	活動支援	活動支援	活動支援	営農担い手協議会
農業・農村の確立 道民の理解に支えられる	地産地消と食育活動の推進	情報提供	活動支援	活動支援	農業支援センター
	農村景観の保持・保全意識の向上	情報提供	活動支援	活動支援	農業支援センター
	農村ならではの快適な生活環境を整備	情報提供	活動支援	活動支援	農業支援センター

(d) 振興構想図（天塩町）



(イ) 普及活動の地域課題

a 地域課題一覧（地域係）

課題番号	課題名 (関連事業)	具体的 推進事項	主たる 対象市町村	普及対象	担当者	活動期間
1	スマート農業技術の導入による生産の効率化 (利用農家の支援)	・ドローンによる防除作業の効率化 支援農家(0戸→5戸)	初山別村	春風農場 (5戸)	高橋主査 及川専主 水沼普指 田中普指	R3～R5
2	新規就農者の能力向上支援	・ゼミナール開催による農業技術習得・知識力向上 研修会に対する理解度 (0%→100%)	苫前町 羽幌町 初山別村 遠別町 天塩町	ゼミナール受講生 (のべ8名)	川口係長 及川専主 杉村専普 水沼普指 田中普指	R3～R4
3	青年農業者の育成	・積極的な活動の推進 (共同プロジェクト 1→1)	遠別町	遠別町4 Hクラブ (10名)	水沼普指 杉村専普	R3～R5
		・自主的な活動の定着 (学習意欲の向上 40%→70%)	羽幌町 初山別村	羽幌町・ 初山別村 ピンクファーム (6名)	田中普指 及川専主	R3～R5
4	水稲省力化栽培技術(密苗栽培)向上支援	・栽培技術の定着・安定生産 適切な栽培管理の実施 (75%→100%)	羽幌町	みなくる ファーム (1法人)	田中普指 高橋主査 及川専主 水沼普指	R3～R4

課題番号	課題名 (関連事業)	具体的 推進事項	主たる 対象市町村	普及対象	担当者	活動期間
5	○ゆとりある豊かな地域農業の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水稻省力栽培技術の向上（水稻湛水直播技術実践80%以上戸数 0戸→0戸→4戸） ・ 畑作物の安定生産による収益性向上 （地力対策実施のべ面積14.6ha→26.8ha→30ha） ・ 機械のコスト低減と生産性向上 （機械利用組合利用料金設定件数 1→3→5） 	羽幌町	羽幌町築別2地域（7戸）	川口係長 高橋主査 工藤主査 及川専主 杉村専普 大久保専普 斉藤専普 水沼普指 田中普指 武田次長	R3～R7
6	TMRセンター利用農家の生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 粗飼料基盤の強化（コーンサイレージの安定確保5.6t→6t） ・ 飼養管理の改善（暑熱対策による乳量維持農家1戸→2戸） 	天塩町	合同会社更岸フィードセンター（5戸）	工藤主査 杉村専普 大久保専普	R3～R4



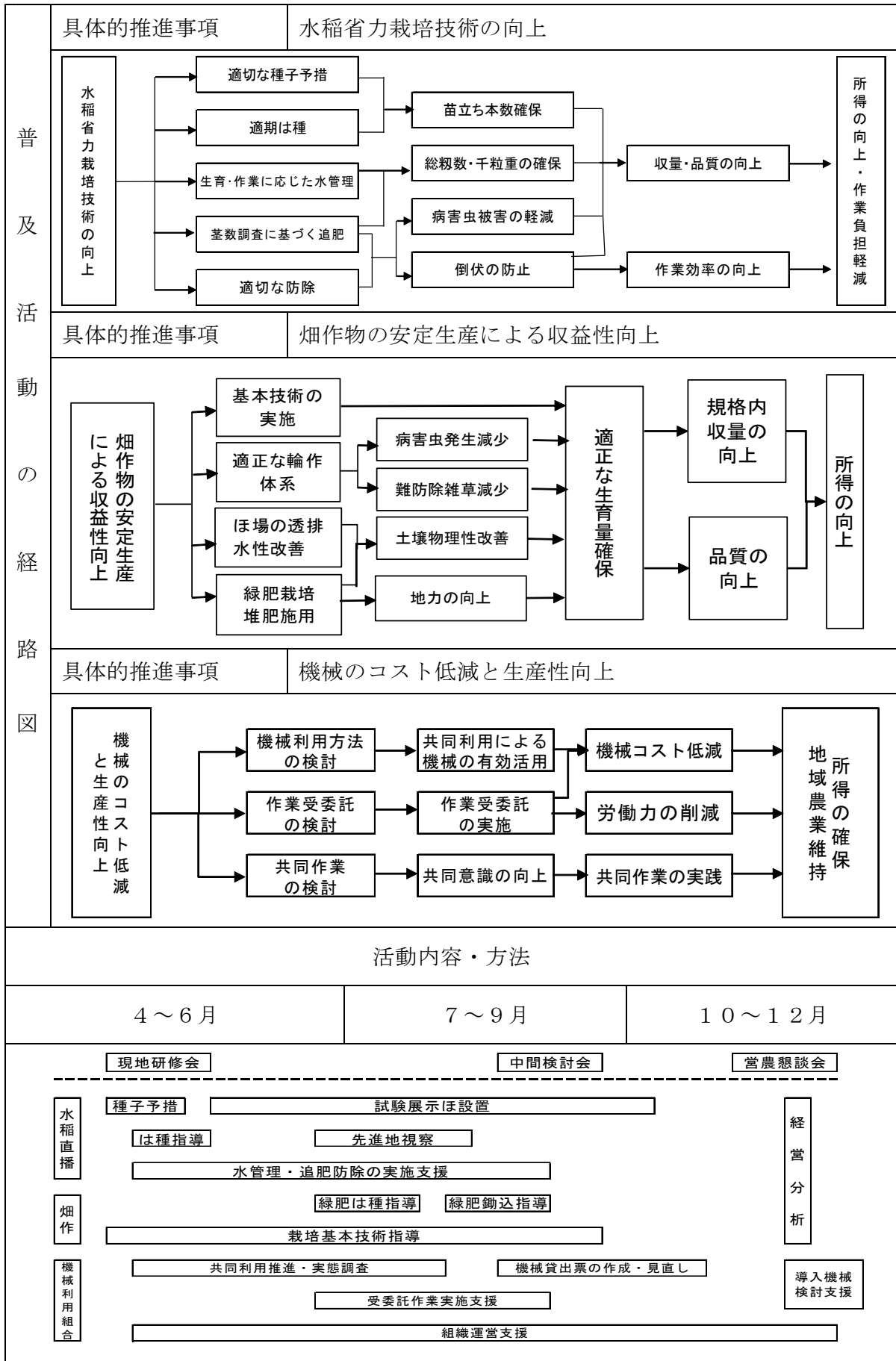
b 重点的に取り組む地域課題（地域係）

(a) 推進計画

課題名		ゆとりある豊かな地域農業の確立
対象地域		羽幌町築別2地域（7戸）
主な活動目標		水稲省力化技術の向上と面積拡大 畑作物の安定生産による収益性向上 機械の有効活用によるコスト低減と生産性向上
活 動 年 次	R 3（実績）	水稲省力栽培技術の向上（現況→目標→実績） ・水稲湛水直播技術実践60%以上戸数（0戸→1戸→3戸） 畑作物の安定生産による収益性向上 ・地力対策実施面積（のべ14.6ha→20ha→26.8ha） 機械のコスト低減と生産性向上 ・機械利用組合利用料金設定件数（1→2→3）
	R 4（計画）	水稲省力栽培技術の向上（開始年→現況→本年度目標） ・水稲湛水直播技術実践80%以上農家（0戸→0戸→4戸） 畑作物の安定生産による収益性向上 ・地力対策実施面積（のべ14.6ha→26.8ha→30ha） 機械のコスト低減と生産性向上 ・機械利用組合利用料金設定件数（1→3→5）
	R 5（計画）	水稲省力栽培技術の向上 畑作物の安定生産による収益性向上 機械のコスト低減と生産性向上
	R 6（計画）	水稲省力栽培技術の収益性向上 畑作物の安定生産による収益性向上 機械のコスト低減と生産性向上
	R 7（計画）	水稲省力栽培技術の収益性向上 畑作物の安定生産による収益性向上 機械のコスト低減と生産性向上

(b) 実践計画

課題番号	5	活動期間	令和3～7年度	担当係	本所地域係
課題名	ゆとりある豊かな地域農業の確立				
キャッチフレーズ	魅力！、活力！、省力！、次代につながる地域農業				
対象地域	羽幌町築別2地域（7戸）				
担当者	川口係長、高橋主査、工藤主査、及川専主、杉村専普、大久保専普、斉藤専普、水沼普指、田中普指、武田次長	連携機関	羽幌町、JAるもい		
関連事業					
重点対象の状況	<p>築別地域：(R2現在) 経営主平均年齢45.1歳（60代2人、40代2人、30代4人）耕作面積229ha（内転作86ha）、水稻135ha、秋まき小麦44ha、春まき小麦13ha、大豆35ha、そば1ha、野菜4ha、その他3ha</p> <p>(1) 羽幌町築別2地域は若手農業者が多く、1戸当たり経営面積は32.7haと規模拡大が進んでおり、個別経営の限界にきている。</p> <p>(2) 労働力が不足している農家も多いが生産性向上の意欲が高い。</p> <p>(3) 経営移譲が進み、今後農地流動や親世代のリタイヤ等が予測される。</p> <p>(4) 地域として生き残るためには地域全体での農地受入体制が必要であり、1戸当たりの機械コスト及び労働力の低減が求められる。</p> <p>(5) 水稻では今後経営面積の拡大があった場合想定される育苗面積の拡大や労働力不足対策として、疎植栽培に取り組み、さらに湛水直播試験栽培を始めた。</p> <p>(6) 畑作は水田転作が多く、透排水性不良・連作・有機物施用不足のため収量性が低い。</p> <p>(7) 機械コストと労働力の低減を実現し、今後、面積拡大に対応するために、機械利用組合が設立された。今後の共同作業機械導入・利用を検討している。</p>				
最終年度到達目標	地域農業粗生産額 3%向上				
具体的推進事項 ・目標事項(開始年→現況→本年度目標)	普及対象	担当者	連携機関		
<u>水稻省力栽培技術の向上</u> ・水稻湛水直播技術実践80%以上農家 (0戸→0戸→4戸)	直播栽培農家 (4戸)	川口係長 高橋主査 工藤主査 及川専主	羽幌町 JAるもい		
<u>畑作物の安定生産による収益性向上</u> ・地力対策実施面積 (のべ14.6ha→26.8ha→30ha)	畑作栽培農家 (7戸)	杉村専普 大久保専普 斉藤専普 水沼普指			
<u>機械のコスト低減と生産性向上</u> ・機械利用組合利用料金設定件数 (1→3→5)	重点全農家 (7戸)	田中普指 武田次長			



2 南留萌支所の区域

留萌管内の南部に位置する留萌市、増毛町、小平町の1市2町は、対馬海流の影響で農耕期間は比較的温暖である。農業地帯は中小河川沿いに発達し、透排水性不良の粘質土壌が広く分布している。主な作付品目は、3市町ともに水稻を基幹に畑作物、園芸作物並びに畜産等を組み合わせた複合経営が主体となっており、増毛町には果樹専業経営もある。

水田転換畑では土地利用型作物である秋まき小麦、大豆、そば等の定着が進んでいる。

(1) 地域の現状と改善方向

ア 持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

(ア) 高齢化の進展と地域支援システム作りの推進

- ・農業従事者の高齢化に伴う労働力不足が進み、今後、個別完結型経営による地域農業の維持、発展を図ることは難しい(表1)。また、新規就農者も少なく、現在の農家戸数を維持することが厳しい状況であることから、地域農業を支える組織作りによる農地の維持が重要である。そのため、既存の生産組織及び農作業受託組織の拡充など地域支援システムの確立や農業法人の育成を関係機関と連携して進める必要がある。

表1 年齢別農業従事者数(人)

年齢区分	小平町	留萌市	増毛町
30歳未満	8	0	2
30～59	105	34	34
60～64	24	11	7
65歳以上	88	72	65
計	225	117	108

注) 2020農林業センサスより

(イ) 集落組織機能の維持強化と集落再編の推進

- ・農家戸数の減少に伴い、農地の維持や用排水の維持管理等の集落機能が徐々に停滞してきている。集落の持つ機能を活性化させ、農地・用排水の維持管理による生産基盤の確保など総合的な取り組みが必要である。

(ロ) 階層分化の進展と担い手等への農地集積の推進

- ・農家戸数は専業、兼業を問わず減少しており、担い手への農地集積を含めた農地の流動化に対する経済的な負担軽減が求められる。また、ほ場分散も多く作業効率が悪い。今後は、「担い手経営安定対策」対象農家として、認定農業者(個人)は水田経営規模10ha以上、集落型経営体(地域連携型法人)は水田経営規模20ha以上の規模が求められることから、地域の将来を見据えた農地集積を進めるため、「人・農地プラン」の支援による農地集積及び交換分合が必要である。

(ハ) 水稻及び土地利用型作物の安定生産

- ・水稻生産において、高整粒・低タンパク米生産の年次差が大きいことから基本技術を励行した高品質米の安定生産が求められる。
- ・高齢化による農家戸数の減少に伴い一戸当たりの作付面積は増加しており、農作業を効率的に進めるための体制整備が必要である。
- ・畑作物は土壌透排水性不良が収量・品質不安定化の大きな要因となっていることから、排水改善による畑作物の安定生産と水田とのブロックローテーションを視野に入れた対策が求められる。

(ニ) 園芸作物・果樹等の高位安定生産

- ・園芸作物は、各部会を中心に組織活動が行われており、関係機関との連携により活動の活性化及び生産技術の高位平準化が進んでいる。
- ・果樹では、果樹協会を中心に生産性の向上、クリーン農業の推進及び生産・販売が行われている。

(ホ) 環境と調和した農業の推進

- ・水稻栽培では、温湯消毒済の種子を用いており環境に配慮した生産が行われている。
- ・果樹栽培及び園芸作物(ピーマン)ではYES!clean認証を取得しており、減農薬・減化学肥料栽培に取り組んでいる。
- ・廃プラスチックや畜産糞尿等の適正処理に取り組んでいる。
- ・特別栽培米等の減農薬・減化学肥料栽培による水稻生産が広まりつつあり、環境保全型

農業に取り組んでいる。

イ 国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・基幹作物である米は地域内外における需要を拡大するため、品質向上とともに情報発信が必要である。
- ・地元で栽培されている野菜類は、道の駅や直売所で販売されており一定の需要がある。
- ・果樹では従来から行われているジャムやジュース加工以外の新たな加工方法が検討されており、技術支援及び情報提供が必要である。
- ・地元で栽培されている強力小麦粉「ルルロソ（北海259号）」は一定した業務需要があるが生産量が少ないため、安定した生産体制作りが求められている。

ウ 多様な人材が活躍する農業・農村の確立

(ア) 担い手活動の活性化と新規参入者等の育成確保の推進

- ・農協青年部組織は広域活動を行っており、地域イベントへの参加や学習会活動に取り組んでいる。
- ・令和元年度より、管内関係機関と連携して新規就農者、女性農業者等を含めた「学ぶ場」、「交流の場」として普及センター主催の農業基礎ゼミナールが開催されている。
- ・3市町の新規就農者は非常に少なく農家戸数の急激な減少が危惧されることから、担い手の育成・確保は重要な課題であり、新規参入者に対する受入体制の整備及び営農支援の充実等を図る必要がある（表2）。
- ・「るもい指導農業士・農業士会南ブロック」には19名の会員が所属しており、会員相互の情報交換による資質向上及び後継者育成が必要である。

(イ) 女性組織活動の活性化と経営参加の支援

- ・農村女性が農業に生き甲斐と誇りを持ち、仲間と協力しながら地域を活性化する活動が行われている。
- ・簿記記帳など経営管理能力の向上に取り組む女性は少なく固定的である。一方で、経営のパートナーとして「情報交換」「学習の場」が必要とされる。

エ 道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・女性グループは、活動メンバーの固定化と高齢化により活動停滞の中、今後は地域農業への理解を深めるため、生産者と消費者との交流が必要である。
- ・未就学児及び小学生を対象に水稻を中心とした食育活動が盛んに行われている。

表2 南留萌における新規就農者及び新規参入者の動向

市町村	区分	H29	H30	R1	R2	R3
小平町	新規学卒	0	0	0	0	0
	Uターン	0	0	1	0	0
	新規参入	0	0	0	0	0
	計	0	0	1	0	0
留萌市	新規学卒	0	0	0	0	0
	Uターン	0	0	0	1	0
	新規参入	2	1	0	0	0
	計	2	1	0	1	0
増毛町	新規学卒	0	0	0	0	0
	Uターン	0	5	0	0	0
	新規参入	0	0	1	1	0
	計	0	5	1	1	0

(2) 普及活動の地域課題

ア 地域係の担当活動区域（留萌市、増毛町、小平町）

(7) 現状と改善方向（地域係）

a 留萌市

(a) 農業・農村の現状

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・ 水稻は良食味米品種である「ゆめぴりか」・「ななつぼし」を中心に作付けされているが、低タンパク米出荷率は低い。平成25年からは小平町の施設でラック式低温庫によるフレコン・バラ受入が始まり、米集荷作業の省力化が進んでいる。
- ・ 土壌診断結果に基づく適正な肥培管理の実施が少ない。また、規模拡大や春先の労働力不足等により、育苗管理時間・ハウス面積が十分に確保できないことから、従来より株間を広げて栽培しており、品質へ影響を及ぼしている。
- ・ 平成29年より一部で水稻「きたくりん」によるYES!clean認証を取得している（3戸）。
- ・ 規模拡大による労働力の競合を緩和するため、平成28年から水稻乾田直播栽培・水稻無代かき栽培の取り組みを開始した。しかし、水稻乾田直播栽培では収量・品質の年次変動が大きく対策が必要である。
- ・ 畑作物は、転作畑土壌の粘質が強いため碎土性・透排水性が悪く、生産性が低い他、小麦、大豆の連作が続いている。
- ・ 花きはトルコギキョウを中心に作付けされ、大輪仕立てが市場から高い評価を得ている。後継者が少ないため、新規参入者2戸が平成30年度より栽培を開始している。大輪仕立ては整枝や芽かきに多くの労力が必要なため、省力化や採花期分散を目的にハウス自動換気装置や温風暖房機が導入されている。また、労力分散やトルコギキョウの連作回避を目的に大輪アスターやハボタン等の導入が進んでいる。
- ・ ピーマンのYES!clean栽培について、高齢化により作付けを中止した農業者の経営を新規参入者2戸へ引き継ぎ、栽培管理、特に病虫害防除技術の習得と収量の向上を目指している。また、YES!clean認証取得を機に、環境に配慮した農業への取り組みが進んでいる。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・ 乾燥野菜加工グループは会員の高齢化により活動を休止している。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・ 農業生産法人への農地集積及び作付委託により、農地の有効利用と転作作物における労働軽減が図られている。
- ・ 新規学卒等の若手農業後継者は少ない。関係機関との連携により新規参入者確保の取り組みを推進し、平成30年度から2名が就農している。
- ・ 令和元年度より新規就農者、女性農業者等を含めた「学ぶ場」、「交流の場」とした農業基礎ゼミナールが普及センター主催で開催されている。
- ・ 「るもい指導農業士・農業士会南ブロック」では会員相互の情報交換が行われているが、指導農業士・農業士による地域の担い手育成活動の機会が少ない。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・ 女性農業者組織は高齢化により活動が停滞している。
- ・ 地域の中堅農業者による小学生を対象とした食育活動（水稻田植え・収穫体験）が行われている。

(b) 改善方向（留萌市）

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・ 水稲栽培における基本技術の励行及び土壌診断結果に基づく施肥設計等の取り組みによる低タンパク米生産率、高品質米出荷率の向上。
- ・ 水稲YES! clean取り組み農家に対する技術の高位平準化。
- ・ 「南るもい輪作研究会」による水稲乾田直播栽培・無代かき栽培技術の研鑽及び安定生産。
- ・ 畑作は心土破碎やほ場の均平化及びカットドレーンの施工等による粘質土壌の透排水性改善をし、また、大豆間作小麦による連作回避及び水稲とのブロックローテーションを視野に入れた生産技術の高位平準化を進める。
- ・ トルコギキョウ整枝マニュアルを確立し、土壌消毒及びハウス内輪作による土壌病害対策を進める。
- ・ ピーマンは、生育量に応じた肥培管理の徹底と予察に基づくYES! clean栽培基準下での病害虫防除の実施及び効果の確認と検証を進める。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・ 関係機関との連携及び情報交換による新規高付加価値化志向農家の発掘。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・ 農作業の受委託組織（農業生産法人、機械利用組合）間の調整等による効率的な作業体系の確立。
- ・ 新規就農確保対策及び支援対策を関係機関と連携し確保・育成に努める。
- ・ 農業後継者及び新規参入者等を対象とした学習会やゼミナールの参加による資質の向上。
- ・ 指導農業士・農業士を中心とした担い手育成体制の構築及び育成。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

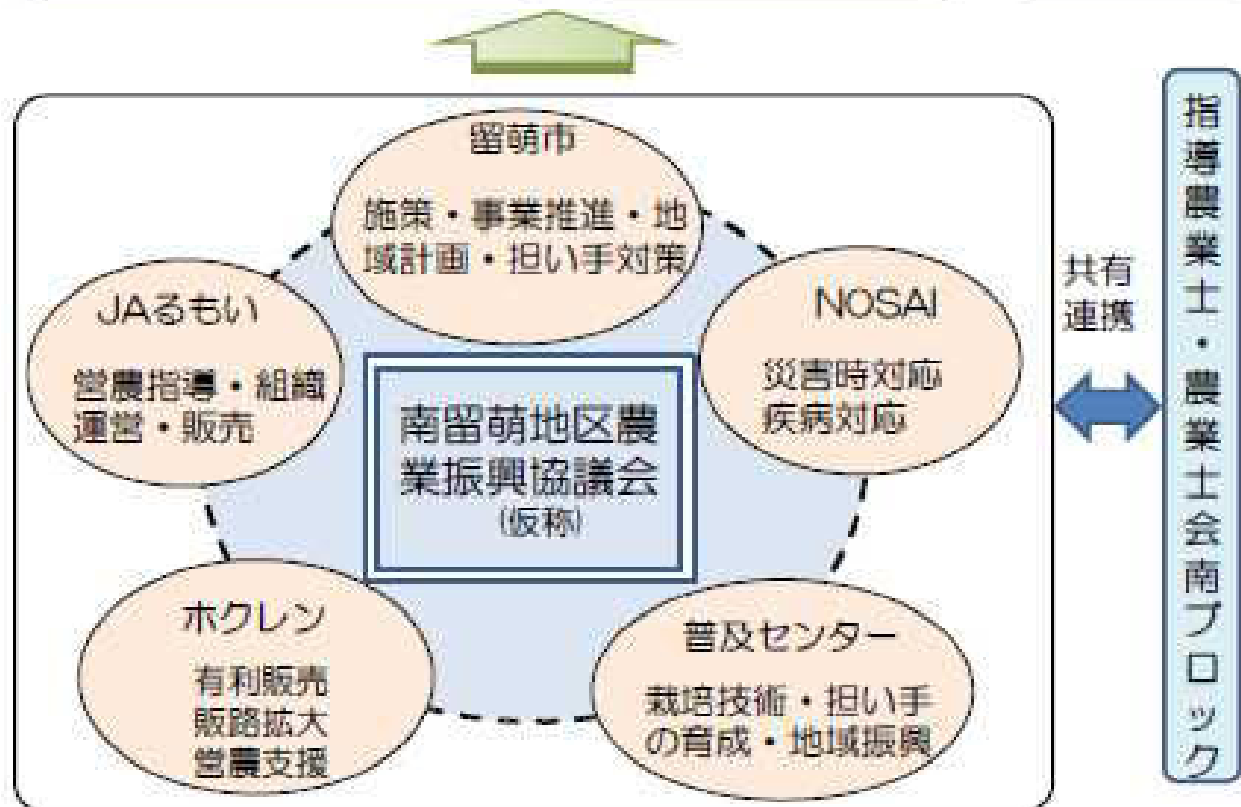
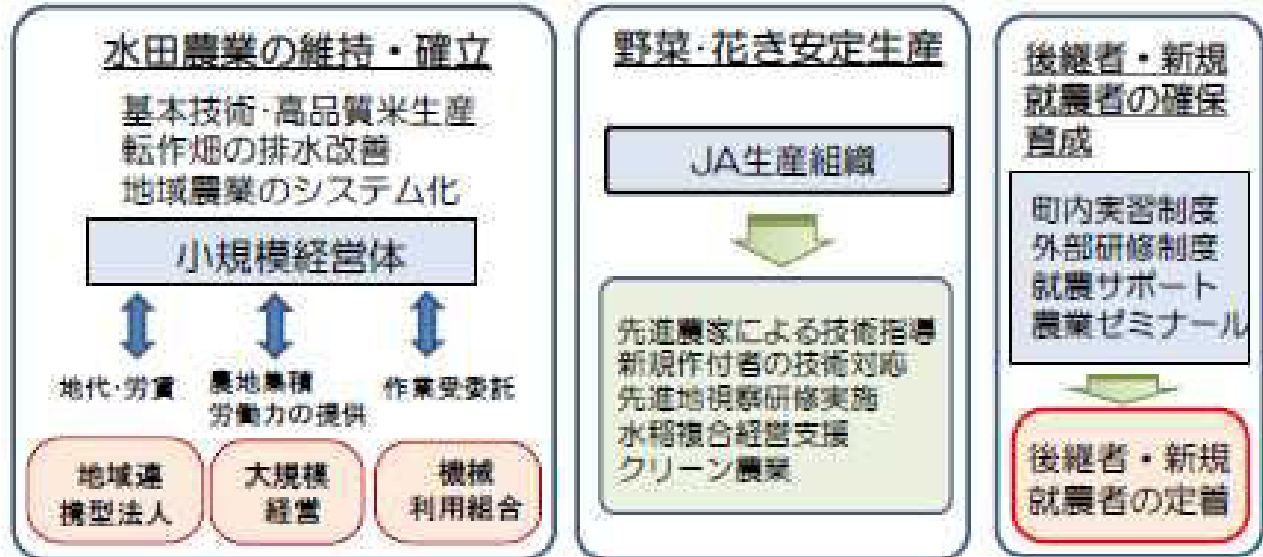
- ・ 女性農業者による新たなグループ活動の展開。
- ・ 田植え、収穫体験等による食育活動の継続。

(c) 具体的な改善対策（留萌市）

区 分	改善対策	連携・役割分担の内容			
		普及センター	市町村	農協	その他
持続可能な生産性が高い農業・農村の確立	高品質米の安定生産	技術支援	振興支援	活動・販売支援	農業振興協議会
	転作畑の透排水性改善及び畑作物の生産技術高位平準化	技術支援	振興支援	生産部会活動支援	農業振興協議会
	トルコギキョウ土壌病害対策実施による所得確保	技術支援	振興支援	活動・販売支援	
	YES! clean（水稻・ピーマン）取り組み支援	技術支援	振興支援	生産計画販売対応	
国内外の農業者の必要を取り込む農家の確立	高付加価値化志向農家への支援	技術支援	振興支援	活動支援	
多様な農業・人材が活躍する農村の確立	農作業受委託組織育成による体制整備の推進	活動支援 組織育成	振興支援	組織育成	農業振興協議会
	農業後継者・新規参入者・女性農業者の資質向上	活動支援 技術支援	研修支援	生産組織支援	
	指導農業士・農業士会の活動支援と地域担い手育成推進	組織運営支援	組織支援	活動支援	
農道民の確立・農業に支	農作業体験・食育活動支援	活動支援	組織支援	活動支援	

留萌市農業のめざす方向

地域受託組織を活用した水田農業の維持・確立
 地域農業の担い手確保・育成



b 増毛町

(a) 農業・農村の現状

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・ 水稲の基幹防除は、無人ヘリ防除組織により作付面積の約60%を受託している。平成27年から基盤整備事業が実施されており、ICTを活用したスマート農業の導入及び効率的作業体系の整備が進みつつある。
- ・ 水稲は良食味米品種である「ゆめぴりか」・「ななつぼし」を中心に、酒造好適米、飼料米と幅広く作付けしている。3市町の中では比較的低位タンパク米生産出荷率が高く、水稲は良食味高品質米を生産しているが収量性が低い。
- ・ 土壌診断結果に基づく適正な肥培管理の実施が少ない。また、規模拡大や春先の労働力不足等により、やむを得ず疎植栽培の実態があり品質へ影響が懸念される。
- ・ 令和2年度より6戸の農業者で特別栽培米の生産が開始されており、減化学肥料・減化学合成農薬による米の生産が行われている。
- ・ 規模拡大による労働力の競合の回避から、平成28年より水稲乾田直播栽培・水稲無代かき栽培の取り組みを開始した。しかし、水稲乾田直播栽培では収量・品質の年次変動が大きく安定生産に至っていない。
- ・ そばによる連作が続いており、また、収量の個人差が大きい(94kg/10a~144kg/10a)。
- ・ 果樹農家では、雇用労力の減少により管理・収穫作業等の遅れが問題となっている。また、協会組織を中心としたクリーン農業の推進にあたって減化学肥料・減化学合成農薬の技術継続を実施している。
- ・ 近年の異常気象により、おうとうの結実不安定、りんごの腐乱病、西洋なしの胴枯病の発生が問題となっている。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・ 令和2年より特別栽培米の生産が開始され、付加価値を付けた米価となっている。また、町のふるさと納税への返礼品としても採用され、町のPR品目となっている。
- ・ 地場農産物(果樹)を活用した高付加価値化の取り組みが増えている。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・ 農業者の高齢化に伴い、JA女性部などのグループ活動の継続が困難な状況にある中、平成30年度より、若手女性を対象としたグループ活動が開始された。
- ・ 令和元年度より新規就農者、女性農業者等を含めた「学ぶ場」、「交流の場」とした農業基礎ゼミナールが普及センター主催により開催されている。
- ・ 指導農業士・農業士会南ブロックでは会員相互の情報交換が行われているが、指導農業士、農業士による地域の担い手育成活動の機会が少ない。
- ・ 「地域おこし協力隊」制度を活用し新規就農者を募集しているが、就農後の育成体制が明確化されていない。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・ 未就学児童等の収穫体験や観光もぎ取りを通じて地域食材のPRを進めている。

(b) 改善方向（増毛町）

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・ 基盤整備後の水稻安定生産技術及び労力確保システム等の確立。
- ・ 水稻基本技術の励行及び土壌診断結果に基づく施肥設計等の取り組みによる低タンパク米生産率・高整粒米出荷率の向上及び酒米の高品質・安定生産。
- ・ 特別栽培米生産技術の高位平準化を目指し、情報提供及び効率的な農場管理を推進する。
- ・ 「南るもい輪作研究会」との連携による水稻乾田直播栽培技術の向上及び安定生産。
- ・ そば連作回避、転作畑の有効利用を目的とした、新規作物作付けの検討及び作業体系の整備。
- ・ 果樹における作業分散及び低樹勢等の省力化技術による適正な管理。
- ・ 果樹難防除病害における試験研究機関との連携による発生予察の充実及び情報の共有化。
- ・ 果樹のYES!clean、エコファーマーの取り組みにおける環境の変化に対応した技術の改善。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・ 特別栽培米のブランド化及び販路の拡大。
- ・ 高付加価値化に向けた技術情報の提供及び販路の確立。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・ 若手を中心とした新たな女性グループ活動の活性化。
- ・ 農業基礎ゼミナールによる新規就農者、女性農業者の育成。
- ・ 指導農業士・農業士を中心とした担い手育成体制の構築による担い手育成。
- ・ 新規就農者の受入及び就農後の支援体制整備。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・ 果樹等の地域農産物を活用した消費者交流の活性化。

(c) 具体的な改善対策（増毛町）

区 分	改善対策	連携・役割分担の内容			
		普及センター	市町村	農協	その他
村持 の統 確立 可能 で 生産 性 が 高 い 農 業 ・ 農	農作業受託組織の拡充と作業オペレーターの養成	活動支援	振興支援	組織運営支援	
	高品質米の安定生産と酒米の高品質生産	技術支援	振興支援	生産計画・販売	
	水稲直播栽培の安定生産	技術支援	振興支援	振興支援	
	YES!clean（果樹）・特別栽培農産物取り組み支援	技術支援	振興支援	生産計画・販売	
	果樹病害虫に対する防除対策支援	技術支援	振興支援	振興支援	
立業を国 ・取内 ・農外 ・村込 の需 確農要	農産物の高付加価値化に取り組むグループ活動支援	情報支援	活動支援	組織運営支援	
確す多 立る様 農な 業人 ・材 ・農 村が 活 躍	農業後継者、新規参入者、女性農業者の資質向上	活動支援 技術支援	研修支援	組織運営支援	
	指導農業士・農業士会の活動支援と地域担い手育成推進	活動支援	活動支援	活動支援	
農え道 村ら民 の確る 立理解 農解 業に ・支	地域農産物を活かした消費者交流の推進	活動支援	活動支援	販売活動支援	

(d) 振興構想図 (増毛町)

増毛町農業のめざす方向

高品質米・果物の安定生産と農地の維持
地域農業の担い手の育成・確保

高品質米生産・農地維持

基本技術・高品質米生産
特栽米・酒米生産
省力技術取り組み

小規模経営体

地代・労賃
土地集積
土地利用作物

農地の提供
労働力の提供
農作業受委託

規模拡大経営体
(集団・法人・個人)

高品質果実の生産

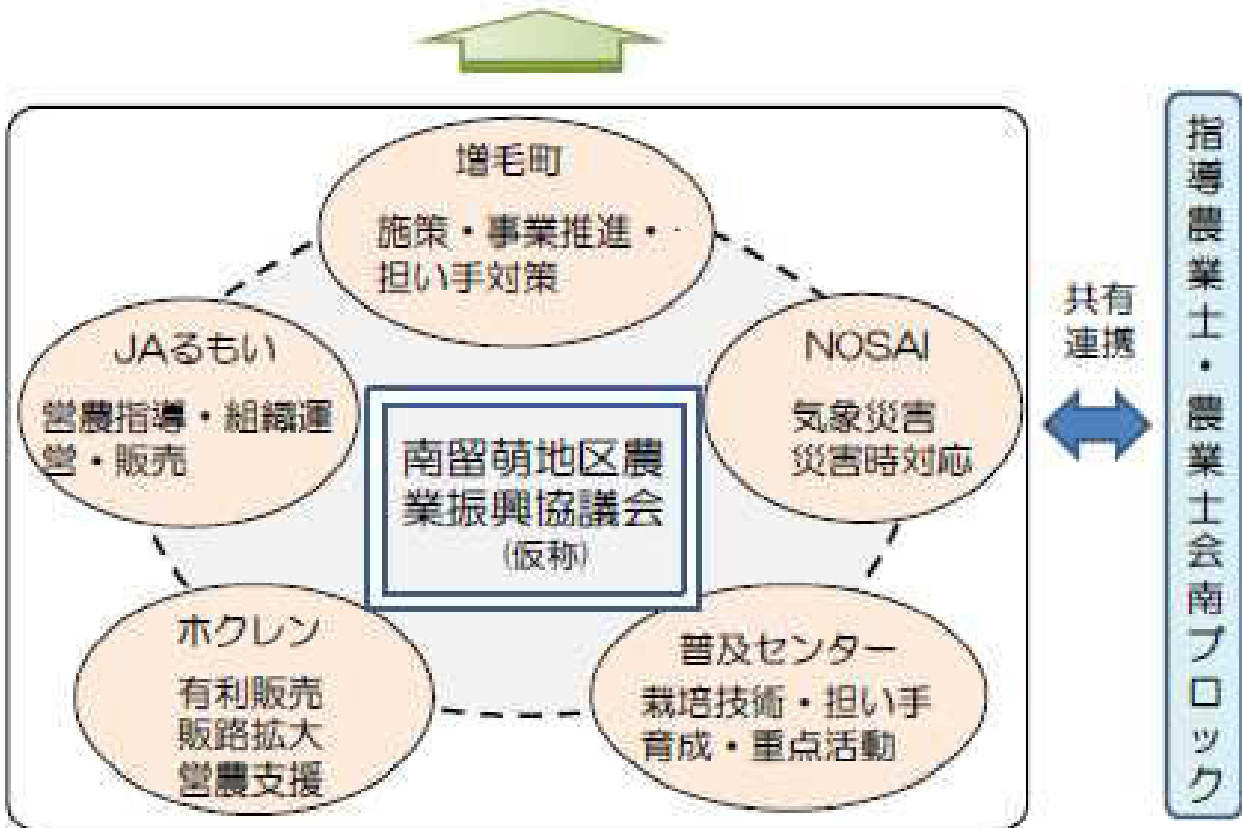
増毛町果樹協会

品目複合化への対応
園地、樹種の集積
低収樹の更新
クリーン農業の推進
加工、高付加価値化

後継者・新規就農者の確保育成

町内実習制度
外部研修制度
各就農サポート
農業ゼミナール

後継者・新規就農者の定着



c 小平町

(a) 農業・農村の現状（小平町）

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・規模拡大による労働力の競合を緩和するため、平成28年より水稲乾田直播栽培・水稲無代かき栽培の取り組みを開始した。しかし、水稲乾田直播栽培では収量・品質の年次変動が大きい。
- ・水稲は土壌診断結果に基づく適正な肥培管理の実施が少なく栽培技術に差がある。
- ・特別栽培米の取り組みにより減化学肥料・減化学合成農薬による米の生産が進んでいる。
- ・畑作物は主に転作畑で小麦、大豆が作付けされているが、碎土性・透排水性が悪く生産性が低い。また、連作が続いている他、栽培技術に個人差がある。
- ・大豆・小麦は地区の作業組合や個人が母体となり、地域毎の共同作業や作業受委託を実施している。
- ・地域主要野菜の作付面積は労力不足により減少傾向である。
- ・ミニトマトは苫前町の生産者とともYES！clean認証を受けており、市場から高い評価を受けている。
- ・トルコギキョウは、市場から高い評価を得ている。しかし、多くの労力が必要なため、省力化や採花期分散を目的にハウス自動換気装置や温風暖房機が導入されている。
- ・肉用牛は、平成20年度からの「北海道和牛産地高度化促進事業」を活用して優良基礎雌牛生産に取り組んでいる。また、繁殖雌牛の共同管理施設（仮）の設立、運営に向けた検討会を開催している（令和4年度運営開始予定）。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・地元で生産されている小麦粉「ルルロソ（北海259号）」は、留萌管内の他、道内外の飲食店等にて生パスタやパン、ドーナツ等の原料として利用されている。また、地元の女性農業者による本格的なパン作りなど高付加価値化が進められている。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・小平町4Hクラブは、研修会等による作物栽培技術の習得や地域行事への参加を中心に活動している。また、令和2年度より留萌管内4Hクラブ連絡協議会へ再加入し、地域外の青年農業者と交流が行われている。
- ・令和元年度より新規就農者、女性農業者等を含めた「学ぶ場」、「交流の場」とした農業基礎ゼミナールが普及センター主催で開催されている。
- ・「るもい指導農業士・農業士会南ブロック」では会員相互の情報交換が行われているが、指導農業士・農業士による地域の担い手育成活動の機会が少ない。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・女性農業者グループは共同加工施設を活用して農産加工を行ってきたが、メンバーの固定化と高齢化により活動は停滞している。

(b) 改善方向（小平町）

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・「南るもい輪作研究会」による水稲乾田直播栽培技術の研鑽及び安定生産。
- ・水稲の基本技術の励行及び土壌診断結果に基づく施肥設計等の取り組みによる低タンパク米生産率・高整粒米出荷率の向上及び酒米の高品質・安定生産。
- ・特別栽培米の取り組みに対する栽培技術の向上と販売状況等の情報共有。
- ・心土破碎、ほ場の均平化及びカットドレーン施工等の排水改善対策による粘質土壌の透水性改善対策を進め大豆間作小麦や田畑輪換による連作回避及びブロックローテーションを視野に入れた生産技術の推進。
- ・農作業の受委託組織（地域集団、小麦刈取乾燥調製受委託組合）の育成を進める。
- ・野菜・花き類におけるハウス自動換気装置及び機械化可能な品目の導入等による省力化。
- ・YES！clean認証作物に対する安定生産の維持及び新規作付者増加の推進。
- ・花き類における土壌消毒及びハウス内輪作による土壌病害対策。
- ・肉牛は、計画的な素牛生産及び関係機関と連携した飼料自給率の向上と良質粗飼料の安定生産に努める。また、共同飼育管理施設（仮）における効率的運営体制の構築。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・地元産小麦のPR活動及び女性グループ活動による他産業との連携活性化。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・管内の他青年組織との積極的な交流による仲間作りと活動の活性化。
- ・関係機関と連携した農業基礎ゼミナールによる新規就農者、女性農業者の育成。
- ・指導農業士・農業士を中心とした担い手育成体制の構築による担い手の育成。

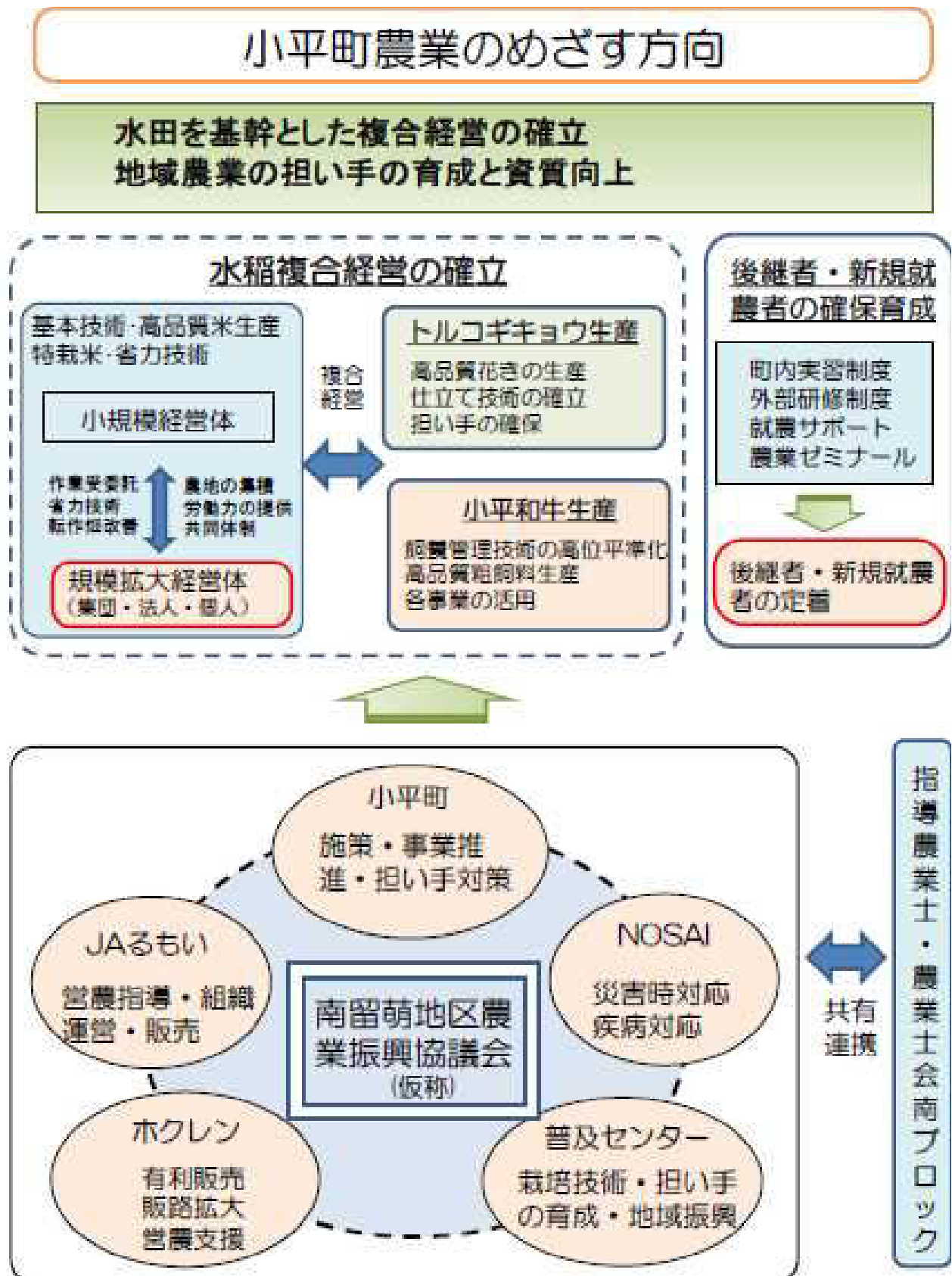
○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・地域農産物を活かした消費者交流。
- ・新規農産物栽培、加工品の開発による女性グループ活動の活性化及び積極的なPR。

(c) 具体的な改善対策（小平町）

区 分	改善対策	連携・役割分担の内容			
		普及センター	市町村	農協	その他
持続可能で生産性が高い農業・農村の確立	高品質米の安定生産と省力化技術支援	技術支援	振興支援	生産計画・販売	
	特別栽培米の取り組み支援	技術支援	振興支援	生産計画・販売	
	ほ場の排水改善及び畑作物生産技術の高位平準化	技術支援	振興支援	生産組織支援	
	農作業受託組織育成による地域農業システムの推進	活動支援	振興支援	生産組織支援	
	野菜・花きの安定生産	技術支援	振興支援	生産計画・販売	
	YES! clean（ミニトマト）取り組み支援	活動支援	振興支援	生産計画・販売	
	肉用牛飼養管理技術の支援	技術支援	振興支援	生産組織支援	NOSAI
国内・農村の確立を国・農村の必要とする	地元産小麦のブランド化・高付加価値化の支援	技術支援	振興支援	活動・販売支援	
多様な農業人材が活躍する確立	農業ゼミナールによる中堅農業後継者、新規参入者、女性農業者の資質向上	活動支援	研修支援	活動支援	
	指導農業士・農業士会の活動支援及び地域担い手育成推進	活動支援	活動支援	活動支援	
道の理解に支えられる確立	農産物加工品のPR推進とグループ支援	活動支援	活動支援	組織支援	
	地域農産物を活かした消費者交流の推進	活動支援	活動支援	活動支援	

(d) 振興構想図（小平町）



(イ) 普及活動の地域課題

a 地域課題一覧（南留萌支所地域係）

課題番号	課題名 (関連事業)	具体的 推進事項	主たる 対象市町村	普及対象	担当者	活動期間
7	水稲特別栽培米安定 生産支援	効率的な防除体系の確立 目標：農薬検討会の回数（0回→1回）	小平町	小平町特別栽培米研究会（3戸）	山黒普指 荒木普指 新井係長	R4～R5
8	○次代を担う水稲を 基幹とした地域農業 の確立	水稲安定生産技術の確立 ・土壌診断結果に基づいた施肥管理の実施 目標：実践戸数4戸→4戸→6戸) ・病虫害発生予察情報に基づく防除の実施 目標：実践戸数0戸→0戸→4戸) 地域農業を考える会（別荘クラブ）の活動支援 ・労働環境の改善 目標：改善数0個→0個→1個 課題解決の実践 目標：取り組み数0個→0個→1個	増毛町	増毛町別荘（10戸）	新井係長 藤塚専普 山黒普指 荒木普指 秋松主査 伊東支所長	R3～R7

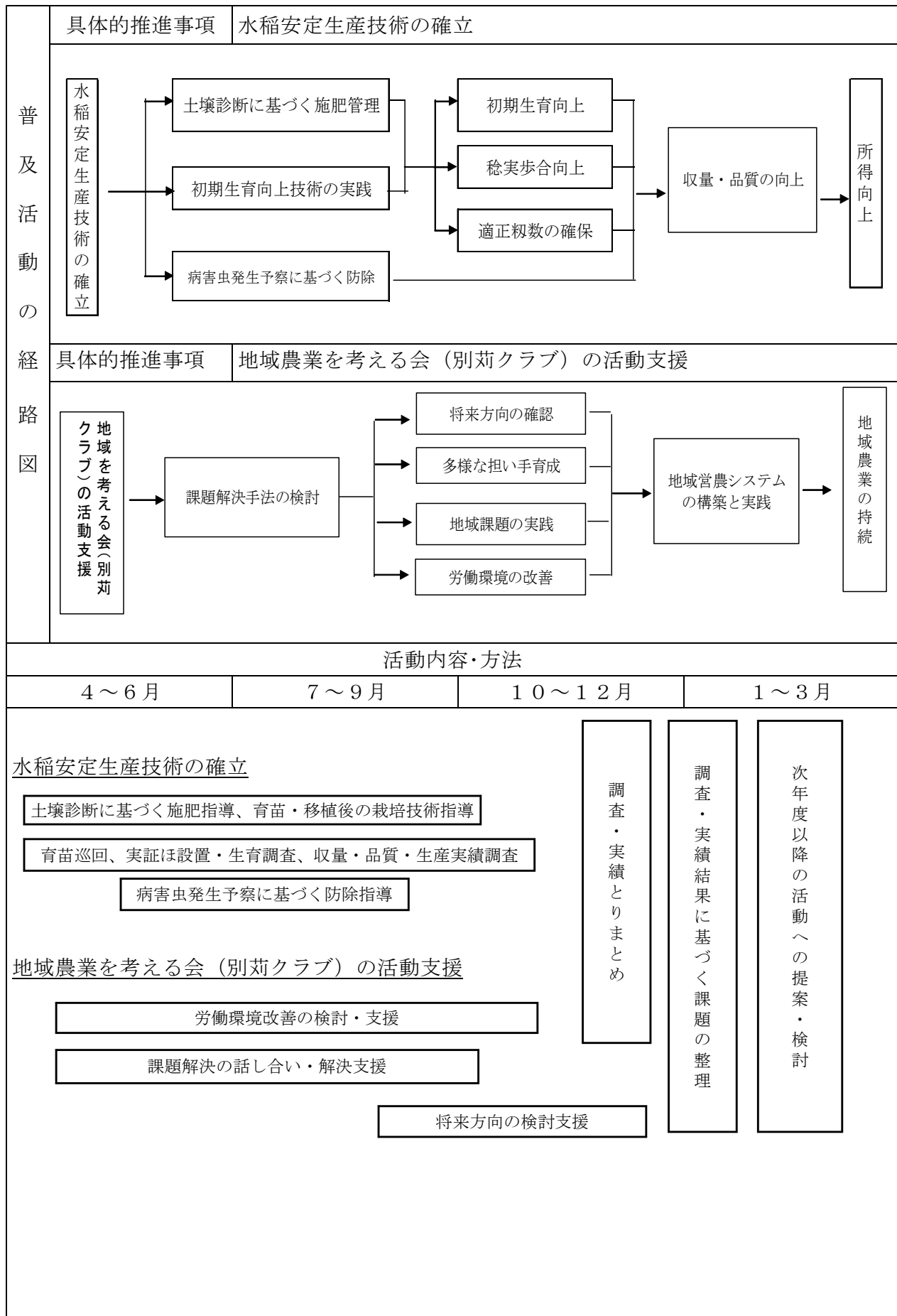
b 重点的に取り組む地域課題（南留萌支所地域係）

(a) 推進計画

課題名		次代を担う水稲を基幹とした地域農業の確立
対象地域		増毛町別荘地区（10戸）
主な活動目標		①水稲栽培技術の高位平準化による安定生産と売れる米づくり支援 ②労働環境整備による安全で効率的な農作業の実践支援 ③地域農業の持続を目指した地域営農システムの構築支援
年次	活	R 3 (実績) 水稲安定生産技術の確立 (現況→目標→実績) ・初期生育向上技術の実践 (実践戸数 0戸→3戸→4戸) 効率的な労働環境の整備 ・GAP手法を活用した農場管理の改善点の整理と検討 (改善検討戸数0戸→3戸→3戸) 地域農業を考える会（(仮)別荘クラブ）の設立 ・地域農業を考える会の設立 (考える会の設立 0→1→1)
	動	R 4 (計画) 水稲安定生産技術の確立 (開始年→現況→本年度目標) ・土壌診断結果に基づいた施肥管理の実施 (実践戸数 4戸→4戸→6戸) ・病虫害発生予察に基づく防除の実施 (実践戸数 0戸→0戸→4戸) 地域農業を考える会（別荘クラブ）の活動支援 ・労働環境の改善 (改善数 0個→0個→1個) ・課題解決の実践 (取り組み数 0個→0個→1個)
	年	R 5 (計画) 水稲安定生産技術の確立 ・土壌診断結果に基づいた施肥管理の実施 ・病虫害発生予察に基づく防除の実施 地域農業を考える会（別荘クラブ）の活動支援 ・労働環境の改善と定着 ・改題解決の取り組み
	次	R 6 (計画) 水稲安定生産技術の確立 ・水稲安定生産技術の定着 地域農業を考える会（別荘クラブ）の活動支援 ・労働環境の改善と定着 ・地域農業生産システムの検討・実践
		R 7 (計画) 水稲安定生産技術の確立 ・水稲安定生産技術の定着による高品質米の安定生産 地域農業を考える会（別荘クラブ）の活動支援 ・労働環境の改善と定着 ・地域農業生産システム構築

(b) 実践計画

課題番号	8	活動期間	令和3～7年度	担当係	南留萌支所地域係
課題名	次代を担う水稲を基幹とした地域農業の確立				
キャッチフレーズ	増毛町の特別なお米を苺り取り、将来にわたって皆様に届けます！				
対象地域	増毛町別苺地区（10戸）				
担当者	新井係長、藤塚専普、山黒普指、荒木普指 秋松主査、伊東支所長	連携 機関	増毛町、JAるもい ホクレン留萌支所		
関連事業	環境保全型農業直接支援対策事業				
重点 対 象 の 状 況	<p>【別苺地域の現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総農地面積88.4ha（うち水田53.8ha、転作田7.7ha(全てそば)、果樹4.3ha） ・水稲栽培者9戸 果樹栽培者5戸 野菜専業1戸 ・経営主平均年齢：61才 （20代：1名 30代：2名 40代：1名 50代：1名 70代：2名 80代：3名） 				
	<p>(1) 1戸当たり平均面積は8.8haである。基幹品目は水稲で転作畑にはそばが作付けされており、一部で果樹が栽培されている。</p> <p>(2) 平成28年度より開始された基盤整備により、水田面積は1筆当たり2ha程度と大区画化され効率的な農業が可能となったが土壌診断に基づく施肥や土づくりが必要となっている。</p> <p>(3) 水稲栽培では、令和2年より4戸の農業者が「ゆめぴりか」で特別栽培米の生産に取組生産技術の向上が進んでいる。また、2戸で酒米を栽培しており、他の一般栽培米も含めた高品質米の安定生産が必要となっている。</p> <p>(4) 高齢化や労働力不足の背景から今後の地域農業を持続するため、担い手の育成や効率的農業構築などの体制整備が急務である。地域農事組合がない中、令和3年度に地域を考える会「別苺クラブ」が設立し、話し合いの中から地域の課題を確認できた。さらに、労働環境の改善点を検討する動きが見られたことから、水稲栽培技術対策と併せ、地域の課題選定と労働環境改善に取り組む。</p>				
最終年度 到達目標	<p>地域農業粗生産額の維持（H27を100とした指数で100以上）</p> <p>※H27と対比する理由：基盤整備の実施に伴う未作付年があるため</p>				
<p><u>具体的推進事項</u></p> <p>・目標事項（開始年→現況→本年度目標）</p>		普及対象	担当者	連携機関	
<p><u>水稲安定生産技術の確立</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌診断結果に基づいた施肥管理の実施 （実践戸数 4戸→4戸→6戸） ・病虫害発生予察に基づく防除の実施 （実践戸数 0戸→0戸→4戸） 		水稲栽培農家 （9戸）	新井係長 藤塚専普 山黒普指 荒木普指 秋松主査 伊東支所長	増毛町 JAるもい ホクレン留 萌支所	
<p><u>地域農業を考える会（別苺クラブ）の活動支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働環境の改善 （改善数 0個→0個→1個） ・課題解決の取り組み （取り組み数 0個→0個→1個） 		全戸 （10戸）			



V 広域推進事項

1 担い手

(1) 対象地域の現状（担い手）

ア 新規就農者

留萌管内では平成27年～令和元年度の5年間で、44名が就農している。内訳は新規学卒就農者が12名、Uターン就農者が21名、新規参入者が11名（留萌市3名、増毛町1名、羽幌町1名、初山別村1名、遠別町3名、天塩町1名）である。近年、年次変動はあるが、年10名弱が就農している。地域農業の維持・発展のために継続的な新規就農者の確保・育成が急務である。普及センターでは、後継者を含めた就農後のフォローアップのため「るもい農業基礎ゼミナール」を開講している。

イ 青年農業者組織

管内には、青年農業者組織が6組織ある（令和元年度青年農業者グループ活動状況調査）。留萌管内4Hクラブ連絡協議会には、3組織・個人の会員28名（令和3年1月現在）が加入しており、管内青年農業者会議「ファーマーズトークinRUMOI」を柱に活動の活性化を図っている。管内においては、青年農業者組織がない地域もある。また、あっても加入していない青年農業者もいる。

ウ 女性農業者

留萌管内農村女性ネットワーク“オロロン”には、11グループ・個人の会員46名（令和2年11月現在）が所属し、管内研修会（隔年開催）や農業イベントを行っている。会員の高齢化、減少により、活動の停滞も見られる。

エ 指導農業士・農業士

留萌管内では指導農業士17名、農業士36名が認定されている（令和2年1月現在、特別会員除く）。担い手育成及び地域農業振興へのさらなる役割発揮が求められている。ただ地域によっては活躍の場が少なく、地域での認知度が低いところもある。

オ 農業法人

留萌管内の農業法人は、52法人が設立されている（令和2年1月現在）。農地の受け皿や新規就農者の受入先としての役割などが期待されている。また、従業員等の確保や後継者を含めた人材育成等、課題解決を図るための農業法人間の情報交換の場が少ない状況にある。

カ 農作業受託組織

留萌管内には、18の農作業受託組織（令和元年）が存在している、高齢化による担い手（労働力）不足により、受託組織に対するニーズは増大している。

キ 農業高校との連携

留萌管内には北海道遠別農業高等学校があり、道外、管外から就学している。近年、指導農業士・農業士、青年農業者、女性農業者など各担い手組織との連携した取り組みが行われるようになった。遠別農業高校生の地元就農は3名。管内への就農促進につながるための情報共有できる仕組み作りが重要となる。

ク 食農教育活動

地域の農業者、小学校等教育機関、農業関係機関、指導農業士・農業士等と連携し、農業農村・農畜産物への理解を進める食農教育活動を管内各市町村で実施している。

近年、道北地域での教育旅行受入のニーズが出てきており、若手農業者を含め受入実践農家も出てきた。

(2) 改善方向と対策（担い手）

ア 新規就農者

新規就農者の確保・育成のため、振興局農務課、管内農業関係機関、指導農業士・農業士及び農業法人等と連携して取り組みを進める。新規就農者の掘り起こし、リスト化など関係機関との情報共有を図る。

また、新規就農者の経営安定化のため、地域係と連携し、「るもい農業基礎ゼミナール」を通しての技術習得や就農後の巡回指導、経営相談等フォローアップ活動による技術・経営能力向上を図る。

イ 青年農業者組織

各組織の活動の活発化を図り、留萌管内4Hクラブ連絡協議会の運営体制及び活動内容の充実につなげる。また、各行事について会員以外の青年農業者、新規就農者等の積極的な参加を推進し、交流を促進し、4Hクラブ等青年農業者組織への加入促進を図る。

ウ 女性農業者

留萌管内農村女性ネットワーク“オロロン”の活動の活性化及び若手女性農業者の加入促進を図る。また、若手女性農業者組織(増毛フルーツ女子会(MFJ)、ポティロン)の活動支援とネットワーク加入に向けたアプローチする。

エ 指導農業士・農業士

るもい指導農業士・農業士会(各ブロック含む)の活動支援を行い、新規就農者の育成や研修受入に向けた各市町村の動きにつなげ、役割発揮の場を広げる。また、指導農業士、農業士の計画的な推薦に向け、関係機関の理解が重要となる。働きかけとにより、遠別農業高等学校と連携した農業者との交流や体験受入などの取り組みにより、生徒の地域への就農等担い手確保につなげる。

オ 農業法人

農業法人に係る課題解決及び資質向上を図るため、研修会及び管内法人情報交換会を開催する。また、定期的及び継続的に情報交換交流できる体制整備する。

カ 農作業受託組織

作業受託組織設立検討に対して必要な情報提供を行うとともに、設立後の運営を支援をする。

キ 農業高校との連携

指導農業士・農業士を中心に見学ツアーや研修受入、青年農業者、女性農業者組織との交流を通して農業高校生の管内農業への理解につなげるとともに就農等による地域への定着など担い手確保に向けた仕組み作りにつなげる。

ク 食農教育活動支援

関係機関との連携を図り、農業体験学習、教育旅行受入等食農教育の推進に向けた取り組みを支援する。

(3) 推進事項（担い手）

推進事項	地域農業・農村を支える多様な担い手の育成	
主な活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 管内広域組織の活動強化による活性化 (管内4Hクラブ連協、農村女性ネットワーク、るもい指導農業士・農業士会) 2 新規就農者の経営能力の向上 (るもい農業基礎ゼミナール) 3 女性農業者の経営資質の向上及びリーダー育成 4 農業法人の持続的な経営の安定化 	
活 動 年 次	R 3 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・管内広域組織の活動支援 (ファーマーズトークinRUMOIの開催) ・新規就農者の確保・育成 (るもい農業基礎ゼミナールの開催) (青年農業者交流研修会の開催流) ・若手女性農業者の育成 (農業女子のための機械研修会開催) ・農業法人の経営安定化支援 (留萌管内農業法人実態把握) (留萌管内農業法人情報交換会開催)
	R 4 (計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・管内広域組織の活動支援 ・新規就農者の確保・育成 ・若手女性農業者の育成 ・農業法人の経営安定化支援
	R 5 (計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・管内広域組織の活動支援 ・新規就農者の確保・育成 ・若手女性農業者の育成 ・農業法人の経営安定化支援
	R 6 (計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・管内広域組織の活動支援 ・新規就農者の確保・育成 ・若手女性農業者の育成 ・農業法人の経営安定化支援
	R 7 (計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・管内広域組織の活動支援 ・新規就農者の確保・育成 ・若手女性農業者の育成 ・農業法人の経営安定化支援

(4) 具体的推進計画（担い手）

ア 地域農業・農村を支える多様な担い手の育成

活動項目	支援対象	活動内容と方法	担当者	連携機関
・青年農業者組織の活性化支援	留萌管内4Hクラブ連絡協議会	「ファーマーズトーク in RUMOI」の開催	田中主査 釣谷主任 川口係長	管内市町村 管内農業委員会 J A
・新規就農者の確保・育成	るもい農業基礎ゼミナール受講生 他若手農業者	新規就農者交流研修会の開催(るもい農業基礎ゼミナール合同研修) ※管内4Hクラブ連協ファーマーズトークinRUMOI と同時開催	高橋主査 工藤主査 及川専主 杉村専普 水沼普指 田中普指 新井係長	留萌振興局 遠別農業高校 るもい指導農業者 士・農業士会 教育委員会
・若手女性農業者の育成	若手女性農業者	留萌管内若手女性農業者の研修交流会の開催	秋松主査 山黒普指 荒木普指	
・農業法人の安定化支援	留萌振興局 管内農業法人	農業法人研修会の開催 農業法人のネットワーク化に向けた情報収集・支援		管内市町村 管内農業委員会 J A 留萌振興局

2 情報・クリーン・有機

(1) 対象地域の現状（情報・クリーン・有機）

ア 情報の共有化と蓄積情報の有効活用及び情報発信

- (ア) 農業技術情報や地域情報は、普及活動を通して作成され、Nドライブに単年度毎に蓄積され、その後外部HDDに保存している。これまでNドライブの利用方法やルールを決め、情報の共有化と効率的な活用できるように取り組まれてきた。
- (イ) 情報の入手・発信は、インターネットやスマートフォン、さらにはSNSの普及により多様化している。農業者の情報ニーズも経営形態や生活様式、年代、性別などにより様々であるため、地域係と連携しながら農家ニーズをとらえ情報発信する必要がある。
- (ウ) 普及センターの情報発信は、ホームページ、FAX情報、普及センターだより等で行われている。特にホームページは令和2年4月よりリニューアルされ、定期的・タイムリーな情報発信が行われている。

イ 安全・安心なクリーン農産物生産及び持続可能な農業の推進

- (ア) 管内の有機栽培は、6経営体1組織（農業高校）で有機JAS認証を受けている。特別栽培は米で6経営体、大豆1経営体で行われている。YES!clean栽培は、留萌市・増毛町・小平町・苫前町の12作物（18作型）導入されている。そのほとんどが10年以上継続し定着してきている。特に苫前町では、水稲、大豆、メロン、かぼちゃ、ミニトマトなど多くの作物で導入されており、地域をあげた取り組みを行っている。
- (イ) 現在、留萌管内ではGAP認証の取得は1組織（農業高校）のみで、農場HACCP認証の取得農場はない。管内の農家の多くがJA出荷、共販による販売形態が主であり、認証取得への動きにはなっていない。しかし、GAPへ興味を持つ農業者もいるため、導入に向けた支援体制を整備する必要がある。

(2) 改善方向と対策（広域情報・クリーン・有機）

ア 情報の共有化と蓄積情報の有効活用及び情報発信

- (ア) 共有ドライブの活用方法については、定期的な見直し(利用ルール・フォルダ構成等)をしながら、効率的に使用できるように改善していく。また、蓄積された共有情報は、保管場所の整理や周知を徹底し、利用しやすい体制を整える。
- (イ) 必要に応じて職員向けの各種研修会（ホームページ作成、動画編集、各種アプリ等）を開催し、積極的な情報入手・発信ができるように体制整備を行う。
- (ウ) 引き続き地域ニーズに即したタイムリーな農業技術情報の発信を行う。そのために随時ホームページ、センターだよりの内容等の検討を行う。また、農業者以外にも積極的に情報発信を行い、地域農業に対する理解を深めていく。

イ 安全・安心なクリーン農産物生産及び持続可能な農業の推進

- (ア) 管内の有機栽培、特別栽培、YES!clean栽培等クリーン農業の情報収集を行うことで現状と課題を整理するとともに、クリーン農業に関心のある農業者に対し情報提供を行い、推進の足掛かりとする。
- (イ) 農業改良普及センター職員に対してのGAP研修を行い、GAP導入支援に向けた所内体制を構築し、農業者及び関係機関に対するGAPの導入支援を行う。また、各種研修会で農業者や関係機関・団体が集まる場を活用し、GAPや農場HACCPの啓発・情報交換を行う。認証が目的ではなく、経営の中に取り組むことで、持続可能な農業を推進する。

(3) 推進事項(情報・クリーン・有機)

	推進事項	情報の共有化と蓄積情報の有効活用及び情報発信	安全・安心なクリーン農産物生産及び持続可能な農業の推進
	主な活動目標	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有化の整理・活用 外部への情報発信力の強化 農業情報の定期発信 	<ul style="list-style-type: none"> クリーン・有機農業の情報収集 リスク管理を取り入れた持続可能な農業経営の推進
活動 年 次	R 3 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有化の整理・活用方法の見直し (見直し・検討2回) 情報発信方法の検討と各種研修会の開催 (検討会2回、研修会4回) ホームページ、センターだよりの定期発信 (内容検討) 	<ul style="list-style-type: none"> 有機栽培、特別栽培等の情報収集及び導入支援 (生産者リストの確認 1回) (生産者情報の聞き取り2戸) 持続可能な農業への啓発・支援 (GAP認証支援 1校) (モデル事例農家支援 1戸)
	R 4 (計画)	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有化の整理・活用方法の見直し 情報発信方法の検討と各種研修会の開催 ホームページ、センターだよりの定期発信 	<ul style="list-style-type: none"> 有機栽培、特別栽培等の情報収集及び導入支援 持続可能な農業への啓発・支援
	R 5 (計画)	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有化の整理・活用方法の見直し 情報発信方法の検討と各種研修会の開催 ホームページ、センターだよりの定期発信 	<ul style="list-style-type: none"> 有機栽培、特別栽培等の情報収集及び導入支援 持続可能な農業への啓発・支援
	R 6 (計画)	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有化の整理・活用方法の見直し 情報発信方法の検討と各種研修会の開催 ホームページ、センターだよりの定期発信 	<ul style="list-style-type: none"> 有機栽培、特別栽培等の情報収集及び導入支援 持続可能な農業への啓発・支援
	R 7 (計画)	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有化の整理・活用方法の見直し 情報発信方法の検討と各種研修会の開催 ホームページ、センターだよりの定期発信 	<ul style="list-style-type: none"> 有機栽培、特別栽培等の情報収集及び導入支援 持続可能な農業への啓発・支援

(4) 具体的推進計画（情報・クリーン・有機）

ア 情報の共有化と蓄積情報の有効活用及び情報発信

活動項目	支援対象	活動内容と方法	担当者	連携機関
・情報の共有化の整理・活用	所内	①共有ドライブの見直し ②効率的な活用に向けての検討 ③蓄積情報の整理や利用体制の整備	内田主査 福屋主任 及川専主 杉村専普 水沼普指 秋松主査 荒木普指	管内 J A 管内市町村 留萌振興局
・外部への情報発信力の強化	所内	①職員向けの各種研修会（ホームページ作成、動画編集、各種アプリ等）を開催		
・農業情報の定期発信	所内及び留萌振興局管内	①地域ニーズに即したタイムリーな農業技術情報の発信と内容の検討（ホームページ、センターだより等）		

イ 安全・安心なクリーン農産物生産及び持続可能な農業の推進

活動項目	支援対象	活動内容と方法	担当者	連携機関
・クリーン・有機農業の情報収集	留萌振興局管内	①有機栽培、特別栽培等の情報収集及び導入支援	内田主査 福屋主任 及川専主 水沼普指 秋松主査 山黒普指	管内 J A 管内市町村 留萌振興局 遠別農業高校
・リスク管理を取り入れた持続可能な農業経営の推進	留萌振興局管内	①G A P への取り組みの啓発・支援 ②関係機関及び農業者主体の勉強会等活動支援		

3 高付加価値化

(1) 対象地域の現状（高付加価値化）

ア 地域農畜産物による特産品開発支援

平成29年より遠別町の鹿遠産業株式会社を中心となり、農商工連携による色素抽出用紫さつまいも栽培が行われている。ここに試験研究機関が加わり安定生産に向けた取り組みが行われているが、近年、遠別農業高校や名寄市立大学も加わり、地域での新たな特産品開発に向けた取り組みが始まっており、支援が求められている。

また、管内商工業者から高付加価値化グループが生産する地元農畜産物を使った加工品製造の要望があり、普及センターに対してコーディネート機能が求められている。

農畜産物加工品の製造においては、令和2年より食品表示及び衛生管理において、新たな法律に基づく取り組みが義務づけられたことから、管内の農畜産物加工を行う農業者及びグループは知識を深めることが必要となっている。

イ 魅力ある農畜産物の生産支援

留萌管内には増毛町の果樹から天塩町の生乳まで多種多様な農畜産物があり、その中には、超硬質小麦粉「ルルロツソ（北海259号）」、北限のもち米など個性豊かな付加価値性の高い作物も栽培されている。近年、これらの作物は関係機関連携による生産販売支援により、消費者への認知度が高まりつつある。

ただし、羽幌町のながいもなど、市場評価の高い魅力ある作物が栽培されていたが、労働力不足等による作付けの減少により、今では希少品となっている作物もある。近年、これらの作物について復活に取り組む農業者も現れていることから、今後支援が必要となると考えられる。

ウ 高付加価値化事例の収集

留萌管内には豊富な農畜産物があり、多くのグループ、個人が農畜産物の加工、販売等に取り組んでいる（表1参照）。高付加価値化の取り組み事例は、今後増えることが予想される。

このような高付加価値化の事例は、担当者以外に情報が共有されないことが多く、起業化に取り組む際の技術も伝達されずに埋没する可能性が高い。

表1 留萌管内高付加価値化取組数

区分 \ 市町村	増毛町	留萌市	小平町	苫前町	羽幌町	初山別村	遠別町	天塩町	管内広域	合計
食品加工販売	4	1	2	3	3	2	6	4	2	27
直売・農産物加工販売		2	1	1	3	1	3			11
素材加工販売					1		2	1		4
農業体験・加工体験 果樹もぎ取り体験	23			1	1	2	1	1		29
合計	27	3	3	5	8	5	12	6	2	71

（平成30年2月 普及センター調べ）

(2) 改善方向と対策（高付加価値化）

ア 地域農畜産物による特産品開発支援

色素抽出用紫さつまいもは、地域の新たな特産品化に向けて、実用化への取り組みを関係機関や地域係と連携し支援していく。

また、高付加価値化を志向する意欲ある農業者を掘り起こし、情報提供や研修会の開催による人材育成支援を行う。

既存の農産物加工に取り組む農業者及びグループに対して、新たな食品表示や衛生管理に関する法律への知識を深め取り組めるよう支援していく。

イ 魅力ある農畜産物の生産支援

羽幌町のながいもは「ねばりながいも」として、かつて市場評価の高い作物であり、地元スーパーや消費者にも未だに需要がある作物である。このことから、ながいも生産に取り組む農業者に対して生産や販売について支援を行う。

また、その他魅力ある農畜産物の掘り起こしを行い、地域の特産品となれるよう、地域係と連携して生産販売活動について支援していく。

ウ 高付加価値化事例の収集

高付加価値化の情報は、情報の共有化や技術伝達のため、管内の新規事例については引き続き情報収集を行っていく。蓄積した情報は、新規起業に向けての助言の材料や先進的な取り組み事例として高付加価値化グループや6次産業化指向者の技術レベル向上に活用する。

情報公開に応じる高付加価値化グループ等については、関係機関、消費流通関係、マスコミ等へ情報提供を行い、販売促進や活動意識の向上のきっかけとする。

(3) 推進事項（高付加価値化）

推進事項		農商工連携による農畜産物の生産販売の振興
主な活動目標		<ul style="list-style-type: none"> ・ 留萌管内特産品の創出 ・ 高付加価値化グループ及び高付加価値化志向者の能力向上
活 動 年 次	R 3（実績）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域農畜産物による特産品開発支援 （伝統ある特産品の継承機会創出 1件） ・ 魅力ある農畜産物の生産支援 （ながいも生産支援 1件） ・ 高付加価値化事例の収集 （新規事例収集 1件） （外部への情報提供 2件）
	R 4（計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域農畜産物による特産品開発支援 ・ 魅力ある農畜産物の生産支援 ・ 高付加価値化事例の収集
	R 5（計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域農畜産物による特産品開発支援 ・ 魅力ある農畜産物の生産支援 ・ 高付加価値化事例の収集
	R 6（計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域農畜産物による特産品開発支援 ・ 魅力ある農畜産物の生産支援 ・ 高付加価値化事例の収集
	R 7（計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域農畜産物による特産品開発支援 ・ 魅力ある農畜産物の生産支援 ・ 高付加価値化事例の収集

(4) 具体的推進計画（高付加価値化）

ア 農商工連携による農畜産物の生産販売の振興

活動項目	支援対象	活動内容と方法	担当者	連携機関
・地域農畜産物による特産品開発支援	高付加価値化グループ、高付加価値化志向者	①色素取りさつまいもの安定生産支援 ②高付加価値化志向者の取り組み支援 ③地域特産品の継承機会の創出(べこもち 等)	安田主査 福屋主任 杉村専普 斉藤専普 藤塚専普 山黒普指	管内市町村 管内J A 留萌振興局 管内商工業者
・魅力ある農畜産物の生産支援	高付加価値化志向者	①商工業者ニーズの把握と農業者との連携支援 ②新たに生産に取り組む農業者への支援		
・高付加価値化事例の収集	留萌振興局管内	①外部への情報提供 ②高付加価値化指向者に向けての情報提供		

VI 普及業務計画

1 農作物生育状況調査

対象地域	対象作物	調査地点数	備 考
苫前町	水稲 秋まき小麦 春まき小麦 大豆 小牧草 飼料用とうもろこし	2 か所 2 1 1 2 2 2	公表 1 参考 1 参考 2 公表 1 公表 2 参考 2
羽幌町	水稲 秋まき小麦 大豆	2 1 1	公表 2 公表 1 公表 1
初山別村	水稲(もち) 秋まき小麦 春まき小麦 大豆	1 1 1 1	公表 1 参考 1 参考 1 公表 1
遠別町	水稲(もち) 秋まき小麦 春まき小麦 牧草 飼料用とうもろこし	1 1 1 2 2	公表 1 参考 1 参考 1 参考 2 参考 2
天塩町	牧草 飼料用とうもろこし	2 2	公表 2 参考 2
増毛町	水稲 りんご	2 2	公表 1 参考 1 公表 2
小平町	水稲 秋まき小麦 大豆	2 1 1	公表 1 参考 1 公表 1 参考 1
合計調査地点数		39 か所	

2 病虫害発生予察

対象地域	対象作物	調査地点数	備 考
苫前町	水稲 秋小麦 大豆 大豆	1 か所 1 か所 1 か所 1 か所	巡回調査、現況調査実施 巡回調査、現況調査実施 巡回調査、現況調査実施 巡回調査、現況調査実施
羽幌町	水稲 秋小麦 大豆	1 か所 1 か所 1 か所	巡回調査、現況調査実施 巡回調査、現況調査実施 巡回調査
初山別村	水稲 秋小麦 大豆	1 か所 1 か所 1 か所	巡回調査 現況調査実施 巡回調査 現況調査実施 巡回調査
遠別町	水稲 秋小麦	1 か所 1 か所	巡回調査、現況調査実施 巡回調査、現況調査実施
留萌市	水稲	—	現況調査実施
増毛町	水稲 りんご	1 か所 2 か所	巡回調査、現況調査実施 巡回調査、現況調査実施
小平町	水稲	1 か所	巡回調査、現況調査実施
合計調査地点数		16 か所	

3 試験展示ほ・実証ほ

対象地域	対象作物	設置主体	備 考
苫前町	小豆	上川農試、普及センター	小豆優良品種決定現地調査
羽幌町	水稲 水稲 水稲 秋まき小麦 大豆	普及センター 普及センター 普及センター 普及センター 上川農試、普及センター	水稲密苗栽培試験 うるち米湛水直播栽培試験 水稲定点調査 秋まき小麦優良品種決定現地調査 大豆優良品種決定現地調査
初山別村	水稲	普及センター	もち米湛水直播栽培現地適応性調査
遠別町	水稲	上川農試、普及センター	水稲優良品種決定現地調査
留萌市	水稲 トルコギキョウ	上川農試、普及センター 花・野菜技術センター、普及センター	水稲優良品種決定現地調査 トルコギキョウ短日処理遮光トンネル内気温調査
増毛町	果樹 果樹	増毛町果樹協会、普及センター 増毛町果樹協会、普及センター	果樹病虫害発生状況調査 果樹生育状況調査
小平町	秋まき小麦	普及センター	田畑輪換に関する現地調査
合計設置件数		13件	

4 その他（土壌診断等）

対象地域	対 象 作 物	項 目	備 考
苫 前 町	水稲床土・畑作物・野菜	p H・E C	30点
羽 幌 町	水稲床土・畑作物・野菜	p H・E C	60点
初山別村	水稲床土・畑作物・野菜	p H・E C	20点
遠 別 町	水稲床土・畑作物・野菜	p H・E C	10点
天 塩 町	牧草・飼料作物・畑作物	p H・E C	20点
留 萌 市	水稲床土・畑作物・野菜	p H・E C	10点
増 毛 町	水稲床土・畑作物・野菜・果樹	p H・E C	20点
小 平 町	水稲床土・畑作物・野菜	p H・E C	30点
合 計			200点

(参考) 地域農業技術支援会議の活動

課 題	畑作物（麦・大豆）のレベル向上
目 的	<p>当管内は粘質土壌が多く、近年、規模拡大に伴う大型機械の導入が増え、機械の踏圧による硬盤層や透排水性が悪いほ場が目立ってきている。</p> <p>また、異常気象による、ほ場冠水、湿害等により生産性は悪化し、収益性も低く経営を圧迫している。畑作物栽培における基本的栽培技術の伝達のが少なくなったことで、基本技術の実践率が低下し、畑作物全般的な低収による収益性の低下から、技術投入意識が低下し、改善意欲が減退している。</p> <p>地域の安定的な複合経営の推進のために、畑作物の生産性の向上を図る。</p>
方 法	<p>・ J A とホクレン留萌支所の連携により、麦・大豆の安定確収に向け、①排水改善対策の実証ほの設置、②麦・大豆の基本技術の励行と実践、③実施結果の検証、実証ほを利用した講習会の開催等により、基本技術の重要性和収量向上への有効性を生産者に周知する。</p> <p>排水の良否、各作物の生育、土壌断面などの調査は、試験場で分析や診断と助言を行う。</p> <p>・ 普及センターが行う現地実証試験に対して支援する。</p>
地元関係機関との連携	市町村、J A、ホクレン留萌支所営農支援室、上川農業試験場、上川農業試験場技術普及室、留萌振興局、留萌農業改良普及センター

Ⅶ 業務分担
1 活動体制

渡邊所長	武田次長	本所 地域班	区 分	責 任 者	担 当 者	備 考
			地域係区域	川口係長 高橋主査 工藤主査	及川専主 杉村専普 大久保専普 斉藤専普 水沼普指 田中普指	苦前町 羽幌町 初山別村 遠別町 天塩町

南留萌支所 伊東支所長	支所 地域班	区 分	責 任 者	担 当 者	備 考
		地域係区域	新井係長 (秋松主査)	藤塚専普 山黒普指 荒木普指	留萌市 増毛町 小平町

() は地域係を兼務している広域主査

本所 広域班	区 分	責 任 者	備 考
	主任普及指導員 (農業革新支援専門員)	福屋主任 釣谷主任	
	担い手	田中主査	(釣谷主任)
	情報・ｸﾘｰﾝ・有機	内田主査	(福屋主任)
	高付加価値化	安田主査	(福屋主任)
支所 広域班	園芸	秋松主査	支所地域係兼務

2 担当項目

(1) 作目項目

区 分		責任者	本所地域班	南留萌支所	広域班
作物	稲 作	高橋主査	高橋主査 及川専主 水沼普指 田中普指	山黒普指 荒木普指	福屋主任 渡邊所長
	畑 作	川口係長	武田次長 川口係長	新井係長	安田主査
園芸	野 菜	秋松主査	斉藤専普 田中普指	秋松主査 伊東支所長	田中主査
	花 き	秋松主査	斉藤専普	秋松主査 伊東支所長	田中主査
	果 樹	秋松主査	斉藤専普	藤塚専普 秋松主査 伊東支所長	田中主査
畜産	乳牛及び 飼料作物	工藤主査	工藤主査 杉村専普 大久保専普	新井係長	釣谷主任 内田主査
	肉用牛	工藤主査	工藤主査 杉村専普 大久保専普	新井係長	釣谷主任 内田主査

(2) 横断項目

区 分	責任者	本所地域班	南留萌支所	広域班
土壌及び肥料	高橋主査	高橋主査 及川専主 田中普指	秋松主査 藤塚専普	内田主査 田中主査
植物保護	福屋主任	斉藤専普 水沼普指 武田次長	山黒普指 伊東支所長	福屋主任
経営・労働	工藤主査	工藤主査 及川専主	新井係長	釣谷主任
担い手	田中主査	川口係長 高橋主査	新井係長	
情報・クリーン・有機	内田主査	水沼普指	秋松主査	
高付加価値化	安田主査	杉村専普	藤塚専普	
スマート農業	釣谷主任 福屋主任	川口係長 高橋主査	新井係長	田中主査 内田主査 安田主査
農作物生育状況調査	福屋主任	川口係長 高橋主査	新井係長 山黒普指	

※「Ⅶの1の活動体制」と本表とは一致しない。各普及指導員の専門項目ではなく、担当する項目とする。

※スマート農業の担当者は、本支所の各地域系の係長（又は主査（地域支援））、担当者名を記載する。

令和4年度 普及活動計画書

令和4年4月

留萌振興局

留萌農業改良普及センター

(郵便番号) 〒078-4106

(住所) 苫前郡羽幌町南6条2丁目16番地の4

るもい農業協同組合地域農業振興センター

(電話番号) 0164(62)1779

(ファクシミリ番号) 0164(62)2474